

大阪府障害者福祉事業団50年誌



社会福祉法人 大阪府障害者福祉事業団

大阪府障害者福祉事業団50年誌



社会福祉法人
大阪府障害者福祉事業団

CONTENTS

P.2	理念／基本方針
P.4	発刊にあたって
P.6	祝辞
P.9	大阪府立金剛コロニー再編整備
P.57	50年の歴史を振り返る
P.75	ボランティアに支えられて
P.81	大阪府障害者福祉事業団の未来

理 念

ともに生きる心を育み
ともに歩む社会の実現

基本方針

相互に人格と個性を尊重し、安心して暮らす
ことができる福祉社会を実現します。

自己決定、自己選択による利用者本位のサー
ビス提供を基本に、ライフステージに応じ、
わたらしく生きる自立生活を支援します。

情報の公開と透明性のある運営を行うと共
に、改革の視点をもって、効率的経営を行い、
信頼される事業団をめざします。

共生社会の実現のため、障がいの理解、交流
と参加、地域福祉などについて研究と理解を
深め、啓発に努めます。

利用者に質の高いサービス提供ができるよ
う、専門性の向上と意欲に満ちた人材の育成
に努めます。

施設が有する専門機能を連携させ、新たな
創造と工夫をもって総合力を発揮し福祉社
会に貢献します。



発刊にあたって

激動の時代と変革、そして未来へ

社会福祉法人
大阪府障害者福祉事業団

理事長 飯田 哲司



社会福祉法人大阪府障害者福祉事業団は、1969(昭和44)年4月1日に知的障がい児者の更生・自活訓練等を総合的に行う大阪府立金剛コロニーを運営する法人として大阪府により設立され2020(令和2)年に設立50年という大きな節目を迎えることができましたことは、利用者や家族の皆様、地域の皆様やボランティアの皆様、また大阪府をはじめ関係機関の皆様のご支援の賜物であると深く感謝申し上げます。

設立当初は定員850人の大規模な入所施設の運営から始まりましたが、1981(昭和56)年の「国際障害者年」宣言を機にノーマライゼーションの理念が浸透してくると生活の質(QOL)の向上とともに障がいのある方々の状態に合った自立に向けた「支援」が求められるようになり、入所施設の役割についても議論されるようになりました。

このような障がい者を取り巻く社会情勢の変化を踏まえ2003(平成15)年3月策定の「第3次大阪府障害者計画」において「府立の大規模な知的障がい者の入所施設については、関係機関の協力を得て地域に生活の拠点を整備することにより分散化し再編を図るとともに、施設の利用者の状況を踏まえ望ましい施設種別への転換に努める」とされました。

これらを踏まえ2003(平成15)年12月に大阪府とともに「府立金剛コロニーの今後のあり方について」を作成し、その中で「利用者の地域生活への移行」「利用者の状態に合った施設種別への転換」と「整備する施設ごとに民営化、必要な用地は府有地の有効利用等、概ね10年間で整備を完了」等を府立金剛コロニー再編整備の方針とし、翌年度の2004(平成16)年度から始まった再編整備は2018(平成30)年度には知的障がい児施設を残し整備は完了し、運営に関しても完全民営化をすることができました。

この再編整備には足掛け15年の期間を要しましたが、この間利用者の方々には住み慣れた金剛コロニーから、府下8か所の地域生活の拠点である「地域生活総合支援センター」のグループホームに不安を抱えながら約420人に移っていただきましたが、今では地域でいきいきと生活をしていただいております。

また、府立金剛コロニーの再編整備を経て、幼児期・学齢期には児童発達支援や放課後等デイサービス等、青壮年期には生活介護、就労継続支援B型、共同生活援助等の障害者自立支援事業、高齢期には介護老人福祉施設等の介護保険事業、常時医療ケアが必要な方には、病院機能をあわせ持つ医療型障害児入所施設・療養介護施設など利用者のライフステージに応じた医療・福祉・介護サービスを提供できる社会福祉法人として再編されました。

この再編に合わせて、大阪府に準じた職員の給与や配置基準等についても、一般の社会福祉法人並みの給与水準に引き下げることはもとより職員の加配解消や非正規化を図るなど、職員にとって非常に大きな身を切る経営改革無しには成し得なかったものであると考えております。

ここに50周年を迎えるにあたり、改めて職員の皆様方に感謝とお礼を申し上げます。

法人としてはこれからも、利用者や家族の皆様に安心していただけるよう、法人の理念にもありますように利用者のニーズを真摯に受け止め、ライフステージに応じた質の高いサービスを提供することにより、安定した法人運営を継続的に行うことが重要であると考えております。この目標に向け職員一同努力して参りますので関係各位におかれましては、今後もご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

おめでとうは、 ありがとうの言葉で

社会福祉法人
大阪府障害者福祉事業団

評議員 白土 隆司



50年誌刊行によせてのご挨拶を、はたしてどのような言葉から始めてよいものやら？ そんな戸惑いを感じながらペンを執りました。事業団事務局からは、「評議員という立場で…」とのお話でした。しかし私の場合、それとは別にOBという属性を有していることから、『50周年を迎えられ、心からお祝い申し上げます』というごく自然な言辞から入ることには、いささかの抵抗がありました。

もちろん、祝意を示すことに背く気持ちなんぞ、こればっちありません。そういうことでは決してなく「おめでとう」以前に、まずは「ありがとう」という感謝の言葉を捧げなければという気分が強くあったからなのです。

感謝？…でも、そんな単純なものでもありません。たとえば親が喜寿や米寿を迎え、兄弟たちが集って『おめでとう』の声を掛けるとき、その胸中では「これまで育ててくれて、ありがとう」「いろいろと苦労や心配をかけて、ごめんなさい」そして「いまも気にかけてくれて、ありがとう」「いつまでも、元気でいてね」などといった感謝や、いくらかの謝罪といったものがミックスした塊から、まるで炭酸水が放出する泡みみたいな格好で湧きあがってくるような…そんな言葉を。

私にとってコロニー(ここは、敢えて“コロニー”と言わせてください)は、そんな『親』の存在です。厳父でも慈母でもないごく普通の親。

開設4年目の夏に中途入職してから33年余、公の関係で外してはならない基本的なことがらのほかは、鷹揚で窮屈さを感じない自由な環境の中で育ててもらったことは何よりの感謝です。それからまた14年、後期高齢間近の今もなお、注がれる親の光…まさに威光を感じながら日々を送っている自分が居ます。

ただ、今となってあらためて思うことは、在職中はずうっとアンビバレントな心境にあったなということです。「大阪府」という後ろ盾に守られているという安心感と同時に、外からの視線に対する緊張感、先生に最前線されている生徒のような妙な引け目を感じていたのです。ただ、その緊張感はある種の使命感でもありました。砂川センターへの変なライバル意識もその一つであったかもしれません。そんな意味では、仕事への良い活力につながっていたと思えるのです。

さて、この50年誌は、事業団の自立をあらためて宣言する碑(いしづみ)的意味合いを持たせるものであると受け取っています。私が過去に感じてきた緊張感、これからは、また新しい種類の緊張感に変わっていくに違いありません。

私からの拙いメッセージが、これまでお世話になった大勢の方々への感謝と同時に、現役諸氏に対する明日に向けてのエールとして届くことになれば嬉しいのですが。

“事業団の未来に幸多かれ!”。

祝 辞

大阪府障害者福祉 事業団設立50周年 おめでとうございます

こんごう福祉センター
にじょう家族会

代表 稲垣 博之



振り返ってみますと、1972(昭和47)年、兄が旧金剛コロニーに入所し、お世話になって約48年の年月が経過しました。

両親亡き後、自然に私があとを引き継ぐこととなりましたが、今想うと、小さい頃には知的障がいということに自分自身十分な理解はなかったように思います。私が成人してから少しずつ両親の苦勞や家族としてなすべきことを感じるようになりました。当時、金剛バスは金剛コロニー内まで運行されておらず、「金剛コロニー東口」バス停(現:府立こんごう福祉センター東口)で下車しておりました。向陽橋を通り広い敷地内へ入っていく母が、この坂道を辛く感じるようになれば弟としてバトンタッチの潮時かなと考えておりました。

1971(昭和46)年1月に設立された金剛コロニー保護者会は、1976(昭和51)年には金剛コロニー保護者会全体で8寮750人を超えるご家族が加入されておりました。

2004(平成16)年、事業団は「金剛コロニー再編計画」に取り組み、15年の年月を経て金剛コロニーの再編整備を終え、利用者の皆様が安心して生活できる場が完成しましたが、家族会としても、2012(平成24)年12月、大阪府庁へ知事及び府議会各派を訪問して、金剛コロニー建て替え整備とケアホームと障

害福祉サービス事業所の整備の要望書を提出するなど家族の願いを陳情しました。再編においては地域へ移られた方、また、新しく地域からこんごう福祉センターを利用されることとなった方など様々です。これからも、共に一緒にする皆様とのご縁を大切にしたいと考えます。

時の流れとともに施設の変革や家族の状況などが変化し、現在は施設ごとでの独立した家族会として運営されています。「こんごう」「かつらぎ」「にじょう」では、3施設連絡会を設け代表の皆様と家族としてのつながりや各施設における情報交流を図っております。「大阪手をつなぐ育成会」にも支部会員として参画するなど、府下の他施設の皆様との交流にも努めております。

兄も79歳を迎えましたが、お陰様で元気に日々過ごしております。多くの職員の皆様の温かいご支援に心より感謝申し上げます。今後、益々のご発展と事業団理念を原点に、常に利用者の皆様へ寄り添った心と家族の気持ちになってのご支援を願うばかりです。

設立50周年を祝して

大阪府福祉部障がい福祉室

室長 奥村 健志



社会福祉法人大阪府障害者福祉事業団が設立50周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴法人には障がい児の入所施設である大阪府立こんごう福祉センターの指定管理者をはじめ、日頃より本府の障がい福祉施策の推進にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、貴法人は、本府が1970(昭和45)年に大阪府立金剛コロニーとして重度の知的障がい児者の更生、自活訓練等を行う施設を開所して以来、実に50年の長きにわたって運営に携わっていただき、今日まで知的障がい児者の福祉サービスに大きな役割を果たしてこられました。

その間、障がい福祉サービスは、ノーマライゼーションの理念の浸透などにより、施設入所から地域における自立生活の支援へと制度が大きく様変わりし、金剛コロニーも2003(平成15)年12月の「府立金剛コロニーの今後のあり方について(案)」の中で、利用者の地域生活への移行と利用者の状態に合った施設種別への転換という再編整備の柱を掲げるとともに、民間立での整備、運営をめざすこととされました。

貴法人と本府は共に府内に生活の場と日中活動の場を整備するとともに、こんごう福祉センター内には重度・重複障がいや高齢化に対応するため、重症心身障害児施設と特別養護老人ホームを整備し、2017(平成29)年3月の新たな障がい者支援施設の完成により府立金剛コロニーの民営化が完了し、2019(平成31)年3月の

グループホームの完成により再編整備も完了したところです。

貴法人におかれては、金剛コロニーの再編整備の過程において、法人の自立民営化に向け、経営の効率化をはじめとする様々な改革を実行された結果、透明性の高い法人運営とともに、障がい児者の地域における生活支援とライフステージに応じた福祉サービスを提供する、障がい児者や家族から信頼される法人へと発展を遂げられました。これもひとえに、困難な改革を推し進めてこられた理事長をはじめ、全ての職員の皆様の熱意とご尽力の賜物であり、深く敬意を表する次第です。

本府では、「人が人間(ひと)として支えあいともに生きる自立支援社会づくり」に向けて取り組んでいます。障がいのある人もない人も、一人ひとりが人として尊重され、その人らしく生きる、そのことをしっかりと支える社会づくりが重要と考えています。

貴法人におかれましては、設立50周年を契機に、これまでの豊富な経験を生かして府内の障がい児者の福祉サービスの向上により一層のご尽力をいただき、自立支援社会づくりの実現にお力添えをいただきますようお願いいたします。

結びに、社会福祉法人大阪府障害者福祉事業団の今後ますますのご発展と、皆様のご活躍とご健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉いたします。

※大阪府福祉部障がい福祉室は、大阪府立こんごう福祉センターしいのき寮、すぎのき寮の指定管理委託者

全国をリードした 「自立民営化」

大阪府教育委員会

教育長 酒井 隆行



大阪府健康福祉部障害保健福祉室施設課施設整備グループ総括補佐。このやたら長い役職名は、2003(平成15)年度の飯田事業団理事長のものである。この年の12月に「府立金剛コロニーの今後のあり方について」という報告書がまとめられた。当時私は、同じ部の総務課企画グループ補佐という職にあり、とりまとめのキーパーソンが誰かを記憶している。申し上げるまでもなく飯田補佐である。

この報告書は、基本的な施設機能のあり方として、利用者の地域移行と地域生活への支援、高齢化、重度・重複化など利用者の状態に即した施設種別への転換を明確に示したものである。障がいのある人の人生のあらゆる場面に寄り添い、事業団という法人が持つ総合支援機能をフルに発揮してサポートするという現在のサービス体系の原点となっている。

そして、再編整備の方針を定める中で、「金剛コロニーの再編として今後整備する施設については、事業団自身が設置運営する」という方向性を示すことになる。さらには、2008(平成20)年6月に橋下知事のもとで策定された「大阪府財政再建プログラム案」において、「事業団は経営基盤の安定化を図りつつ自立民営化する」との方針が示された。

再編整備を行う施設については、大阪府から事業団に対して土地・建物を無償で譲渡すること

になった。これは、事業団自身が安定したストックを所有することで、スタート段階から自立した運営を円滑に実施できることとあわせ、将来の施設改修や建替えのための財源を確保することが狙いである。その後、全国で公立福祉施設の民営化が順次進められつつあるが、その多くがこのやり方をモデルとして参考にしており、まさに全国をリードしたといえる。発案者は飯田補佐である。

そして、「自立民営化」への道のりは、決して平坦なものではなく、給与見直しを含む厳しい経営改善を続け、多くの事業団職員の皆さんの努力の積み重ねにより達成されたものであることを忘れてはならない。

15年近くの歳月が流れた2017(平成29)年3月31日。府庁別館6階の福祉部長室で「府立金剛コロニー民営化引継式」が執り行われた。私は福祉部長として、当時の事業団の理事長と飯田総合企画監に「譲渡契約書」を手交した。年度最終日の慌ただしさの中であつたが、お互いに変な感慨深く、改めて「自立民営化」の歩みの意義を噛みしめることができた。

そして今、事業団は設立50周年を迎える。大阪府障害者福祉事業団が、大阪、日本の障がい福祉をけん引する最先端の総合基地として、次の50年に向かって大きく羽ばたいていただくことを心から祈念している。50周年おめでとうございます。

※酒井教育長は、事業団民営化時の大阪府福祉部長(2013(平成25)年4月～2018(平成30)年3月)

50

大阪府立金剛コロニー 再編整備

大阪府立金剛コロニーについて	P.10
大阪府立金剛コロニー再編整備の方針	P.11
改革Ⅰ 施設の地域展開	P.12
改革Ⅱ 利用者の状態に合った施設種別への転換	P.16
改革Ⅲ 事業団の自立民営化	P.18
大阪府立金剛コロニー再編整備の年表	P.20
自立民営化を語る座談会	P.22
施設紹介	P.30



大阪府立 金剛コロニーについて

設立の背景と果たしてきた役割

戦後のわが国の知的障がい者(児)への施策は、1947(昭和22)年に制定された児童福祉法と、1960(昭和35)年に制定された精神薄弱者福祉法(現在の知的障害者福祉法)によって入所施設の整備を中心に展開されてきました。

しかしながら、その絶対数が不足していたことに加え、当時の多くの施設は比較的軽度の知的障がい者(児)を対象としていました。

このため、1965(昭和40)年に重度・重複の知的障がい者(児)を対象とした施設の建設に対する要望の高

まりから、総理大臣の諮問機関である社会開発懇親会が、全国に心身障がい者のための大規模入所施設(コロニー)の建設を行うよう意見具申を行いました。

こうした中、1970(昭和45)年に大阪府立金剛コロニー(以下「金剛コロニー」という)は、比較的重度で自立生活を送ることが容易でない知的障がい者(児)の更生・自活訓練等を総合的に行う援護施設として開所し、知的障がい者(児)への施設サービスにおいて、大きな役割を果たしてきました。

再編整備に至る経過

公的補助制度の充実など行政の誘導により民間施設の整備が進む一方、1981(昭和56)年の国際障害者年を機にノーマライゼーション^(注)の理念の浸透によって、障がい者への福祉施策は施設入所から地域における自立生活への支援と転換するなど障がい者福祉を取り巻く社会情勢が大きく変化する中で、特に大規模入所施設については、その役割の見直しが求められることとなりました。

このような状況のもと、大阪府において「府立社会福祉施設等のあり方について(1998(平成10)年12月)」が取りまとめられ、その中で「府立施設は民間での対応が困難な高度専門的な分野を担う施設として再編し、民間でも対応可能な機能については、府域の各圏域に機能を分散する方向で検討を進める必要がある」との方向が示されました。

また、「大阪府行財政計画案(2001(平成13)年9月)」においては、金剛コロニーについて、「府として果たすべき役割を精査したうえで、事業団の経営努力に対する指導や運営手法の見直しなどを行い、民間で対応可能な分野は、順次、民間移行をすすめる」とされました。

さらに、障がい者施策の基本的な方向と達成すべき

具体的なサービス目標を示した「第3次大阪府障害者計画(2003(平成15)年3月)」においては、「府立の大規模な知的障害者の入所施設について、関係機関の協力を得て、地域に施設を整備することにより分散化し再編を図るとともに、施設の入所者状況を踏まえ、望ましい施設種別への転換に努める」とされました。

これらのことを踏まえ、2003(平成15)年6月に府が「府立金剛コロニーの今後のあり方検討会」を設置し、障がい者への理解と人権の尊重を基調に金剛コロニーの今後の再編整備に向けた検討を行い、その基本方向がまとめられ、同年12月に「府立金剛コロニーの今後のあり方について(案)」が取りまとめられ、2006(平成18)年以降この再編計画に基づき、整備が進められることとなりました。さらに、2006(平成18)年4月に「障害者自立支援法(現在の障害者総合支援法)」の施行により変更されたサービスの内容、運営基準等を踏まえた金剛コロニー再編整備方針(案)が2007(平成19)年1月に示されました。

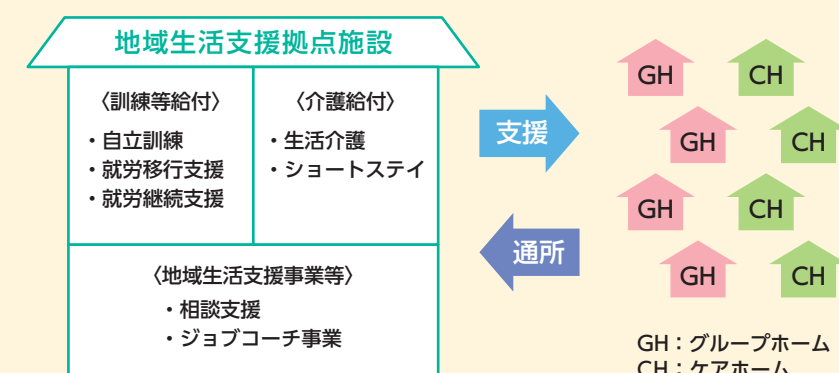
(注)障がい者などが地域で普通の生活を営むことを当然とする福祉の基本的考え

大阪府立金剛コロニー 再編整備の方針

府立知的障害者(児)大規模入所施設
[砂川厚生福祉センター、金剛コロニー]の再編について
～障害者自立支援法を踏まえた府立施設の再編整備方針(案)～
(2007(平成19)年1月 大阪府健康福祉部より)

- ・利用者の地域生活への移行を積極的に促進するため、地域に日中活動の場となる拠点施設と生活の場となる、グループホーム・ケアホームを整備し、知的障害者更生施設等を順次廃止

地域生活支援拠点施設での事業展開(案)



- ・計画的な地域移行の促進
- ・地域生活への移行が当面困難な利用者のため、金剛コロニー内で利用者の状態に対応した適切なサービスを提供できる施設を整備
- ・障害児施設は、国において障害者自立支援法施行後3年を目途に示される施設体系の再編等の検討結果等を踏まえ、施設整備を検討
- ・再編整備の実施主体は、大阪府障害者福祉事業団
- ・再編に必要な用地は、府有地の有効活用等を基本
- ・今後10年間で計画を完了することを目指す

改革I 施設の地域展開

金剛コロニーの各施設の定員は、知的障害児施設が100人、知的障害者更生施設が460人、知的障がい者授産施設が290人で、定員合計の850人は知的障害者(児)の総合的な入所施設としては当時日本最大であり、一方で大阪府内(大阪市、堺市を除く)にある知的障害者の入所施設の定員の約26%に当たるなど、地域偏在の主要因ともなっていました。

また、障がい者福祉施策がノーマライゼーションの理念に基づき、「施設中心の福祉」から「在宅中心の福祉」に大きく転換する中で、入所型の大規模施設については、その役割の見直しが求められることとなりました。一方金剛コロニーの各施設は建築後すでに三十数年が経過しており、施設・設備の老朽化が進行していました。とりわけ、利用者のライフラインである水道・ガスなどの根本的な改修が必要となる時期が重なっていました。

このため、金剛コロニーの知的障害者更生施設の一部については、府内における施設の配置バランス等を考慮の上、府内数箇所に小規模な施設を分散して整備することとなりました。

地域に整備する小規模な入所施設を地域生活への準備の場と位置づけ、利用者はもちろんのこと、在宅の障がい者への自立生活に向けたトレーニングを行うことにより、地域生活への移行を促進する役割を担うこととしました。

府内に地域展開した小規模な入所施設は、障がい者

の地域生活を支える地域に開かれたサービスの拠点としての役割が求められ、その際には、金剛コロニーが培ってきた生活支援及び日中活動支援に加え就労支援や地域生活支援などのノウハウを活用し、障がい者の地域生活への支援に積極的に取り組んでいくものとなりました。

一方、2006(平成18)年4月に「障害者自立支援法(現在の障害者総合支援法)」が施行され、身体障がい、知的障がい、精神障がいの3障がいのサービスの一元化が図られるとともに、更生施設、授産施設といった施設類型や入所、通所の区分が無くなり、それまで入所施設で24時間を通して行われたサービスが、「日中活動支援」と「居住支援」に分離する新しいサービス体系になるなど、わが国の障害者福祉制度が大きく変更されることとなりました。

このことを踏まえ、施設の地域展開は障がいに応じて日中活動支援事業(生活介護、就労継続支援、自立訓練、就労移行支援)と短期入所や地域生活支援事業などの居宅における生活支援の機能を総合的に提供する「地域生活支援拠点施設(以下「拠点施設」という)」と、拠点施設の周りにグループホームの居住支援事業を併せて整備することにより進めてきました。

また、整備する地域については、金剛コロニー利用者の出身地域のバランス等を勘案し、泉州区域、豊能・三島区域、北河内区域、中河内・南河内北区域及び南河内南区域に整備することとなりました。

入居者のライフストーリー 1

高辻洋一 さんの ライフストーリー

現在の利用施設

こんごう(障害者支援施設)

事業団の利用

1970(昭和45)年～



弟が幼少の頃から「自立すること」を母が願っていたため、コロニー開所と同時に「くすのき寮」へ入所しました。

「くすのき寮」での生活は1年ほどで、その後に移行した「けやき寮」での思い出が強く印象に残っています。「けやき寮」では「兄弟姉妹の会」があり、多くのイベントが開催されました。親・兄弟・寮生が交流するとともに、同じ境遇ゆえの悩みなどを共有することで、多くの仲間がいること、つながりがあることを実感でき、とても楽しく過ごせました。

母から「最期までコロニーでお世話になる」と聞いていたので、地域移行の話聞いたときは驚きました。しかし、職員から「若い内に世の中に触れ、弟さんに合う場所でがんばれる機会を経て、またコロニーに戻ってくることが弟さんにとって幸せではないか」とアドバイスをいただきました。その言葉が心に響き、地域移行を希望するようになりました。

その後、泉大津市にあるグループホームへ移行。「けやき寮」時代に一緒に過ごした利用者が

同じホームにいたので安堵しました。グループホームでは「ホームで寝起きし、日中は「ワークさつき」に通う」という明確な生活リズムが生まれました。また、だんじりなど地元の行事に触れる機会が増え、良い刺激になったと思っています。グループホームでの生活中に体調を崩してしまいましたが、現在は障害者支援施設「こんごう」で元気に暮らしています。食べることが好きな弟は、温かいものは温かく、冷たいものは冷たく食べられる食事の時間が楽しみのようです。「こんごう」でも、日中活動があることで生活リズムがつき、落ち着いて生活できています。

自宅から「こんごう」まで距離はありますが、自宅近くの新たな施設よりも、弟が慣れた場所で、健康で長く生活できることを願っています。「弟が全ての苦をもっていつてくれている。私達が楽しく過ごせているのは弟のおかげ」と思いながら弟と接しています。

地域移行説明会



大阪府障害者
福祉事業団検定

Q03

初代コロニー長の名前は？

大阪府障害者
福祉事業団検定

Q04

1998(平成10)年9月に実施された採用試験の日の天候は？

入居者のライフヒストリー 2

矢川玉礼 さんの ライフヒストリー

現在の利用施設

あいあい・みしま(グループホーム)

事業団の利用

1973(昭和48)年～



中学校を卒業する頃、親戚と一緒に「明光学園」を見学、その後、コロニー「もみのき寮」へ入所することとなりました。

「コロニーへ入所後数か月は、姉が寂しい思いをしているのではないかと思います、当時中学生だった私は、学校が昼までだった土曜日に、1人電車に乗って姉を迎えに行ったのを覚えています」(弟さん)。

「「もみのき寮」では一泊旅行や大阪万博へ出かけ、「けやき寮」へ移行したのちは、一人で金剛バスに乗り、富田林駅前にあったダイエーへ買い物に行ったり、職員と一緒に遠方まで電車に乗って出かけたりました。外出するのは楽しかったです」(玉礼さん)。

地域移行の話聞いたときは、慣れた親しみのある地を離れないといけないのは嫌だなと思いました。コロニーでの生活が長くなっていたこと、また、コロニーには「優しい」という印象を持っていたからこそその思いです。

「コロニーがなくなるんだったら仕方がない、と思いました。地域移行先については、地域移行して

も寂しくないよう、職員さんが友達のいる茨木のグループホームを勧めてくれました」(玉礼さん)。

日中は「地域生活総合支援センターあい」の生活介護に通い、毎月の行事や季節に合わせたぬり絵や貼り絵をしています。また、休日はガイドヘルパーを利用し、京都や梅田などへ買い物に出かけたり、雨の日は近所にある図書館にビデオを見に行ったりと、現在も週末の外出を楽しみにしています。

今、「けやき寮」で一緒に過ごした友人が同じグループホームにいますので、このホームでよかったなと思っています。

年齢とともに足腰が弱り、歩くのも不便になってきていますが、できる限り慣れた場所で、健康で長く生活できることを願っています。

「できる限り姉と関わっていきたいのですが、これからお互いに年齢を重ねていくので、今後のことが一番気がかりです。姉の対応をきちんとしてくださる事業所に、心配の気持ちはなく、ありがたい思いでいます。今後も甘えさせていたきたいと思っています」(弟さん)。

入居者のライフヒストリー 3

三谷徳彦 さんの ライフヒストリー

現在の利用施設

かがやき(グループホーム)

事業団の利用

2001(平成13)年～



富田林養護学校卒業後、地域の作業所へ通っていましたが、その頃、コロニーの相談支援担当だった阪口勉氏(現:大阪府障害者福祉事業団職員)と出会ったことがきっかけとなり、金剛コロニー「もみのき寮」へ入所しました。学校、プールや理容店、短期入所の利用などで通い慣れていたコロニーという場所に、息子は自然に馴染めたと思います。

入所当時、今では考えられないほど多動でした。でも「ここは広い敷地。端から端まで走り回ってはるよ～」と、職員さんがのんびりと受け止めてくれていたことが印象に残っています。また、寮から1人で理容店や病院へ通わせていると聞き大変驚きましたが、寮での生活により1人でできることが増えたと実感しました。

入所後3年ほど経った頃から「地域移行」の話があがるようになりました。息子に合った生活環境を望み、グループホームへの移行を希望していたところ、2016(平成28)年4月から大阪狭山市にある整備型グループホームへ移行することができました。

グループホームでは個室で自由。休日にはガイドヘルパーを利用し、興味のある「食」を楽しんだり、家族では対応が難しい遠方へも連れて行ってくれたり、息子本人もこの生活に満足していると思います。自宅へ帰省したとき、息子自身がグループホームへ帰る支度を始める姿を見て、グループホームが自分の居場所であるという認識があるんだと改めて感じています。

息子には人徳があります。どうしようかと困ったときはいつも、阪口さんをはじめ、良い方向へ導いてくださる方々に出会えました。グループホームへの移行後、自分のペースで過ごしている息子の姿に安心しています。今後、加齢に伴いグループホームでの生活が難しくなるかもしれませんが、その時、息子が住み慣れたコロニー内の施設でお世話になれたらと願っています。

改革Ⅱ

利用者の状態に合った施設種別への転換

金剛コロニーでは、重度・重複障がいの利用者や高齢の利用者の状態に応じて、施設のバリアフリー化や個室・洋室化の改修工事を実施してきましたが、居室については4人部屋が基本となっていたとともに、1人当たりの床面積は4～5㎡で、2003(平成15)年4月に改正された新たに施設を建設する際の基準の6.6㎡には達しておらず、狭隘な状況となっていました。利用者の生活の質の向上を図る観点からも、居住空間の拡大やプライバシーの確保など居住環境の改善が必要となっていました。

一方、利用者の障がいの程度については、最重度者(児)が全体の約27%、重度者(児)が約43%と、最重度・重度の利用者が全体の7割を占めるとともに、自閉症スペクトラムや強度行動障がいなど障がいの内容も多様化していました。さらに、利用者の入所期間は、10年以上が全体の約78%、20年以上が約62%、30年以上も約39%に達しており、平均入所期間は21年で入所期間の長期化に伴い、平均年齢も約45歳と高くなっていました。当時、65歳以上の利用者は約30人でしたが、2009(平成21)年度には80人を超え、2012(平成24)年度には100人を超えると予測されるなど、急速に高齢化が進むことが見込まれました。

施設面においては、それまで既存施設のバリアフリー化をはじめ、利用者のニーズに応じて施設に様々な機能を付加するなど、施設の機能を超えて支援を

行ってきましたが、知的障がい者福祉を中心とした支援にも限界が見えてきており、利用者の状態に合った高度専門的な支援が求められることとなりました。

そうした状況から、障がい者福祉や老人福祉を基礎とした、医療、看護や介護機能等の体制が整った施設の整備が急務となりました。

重度で多くの医療ケアを必要とする利用者や強度行動障がいのある利用者へ最善のサービスを提供するためには、病院機能を併せ持ち、治療や日常生活の支援を行うことを目的とした「重症心身障害児施設」が必要とされ、その対象利用者は当時約100人在籍していました。

また、知的障がいと重複して身体障害者手帳1・2級を所持し、常時の介護を必要としている利用者が当時約70人在籍しており、知的障害者更生施設で支援するより、「身体障害者療護施設」における支援がふさわしいと思われたことから当該施設の整備が検討されることとなりました。後に法・制度の改正により障がいの種別による施設種別が撤廃されたことから「障害者支援施設」の整備へと変更されました。

高齢化への対応として、高齢の利用者に介護が必要となった場合でも、介護保険施設への入所は現実的に難しい状況があったことから、介護保険サービスが円滑に利用できるよう、知的障がい者に対応した「特別養護老人ホーム」の整備を進めることとなりました。

再編整備計画にあたっての施設パース図



すくよか(2007年)



かなびのさと(2008年)



こんごう(2016年)



かつらぎ、にじょう(2017年)

※パース:建物の外観や室内を立体的な絵にしたもの(完成予想図)

再編整備により新設された施設



こんごう「ユニットホール」

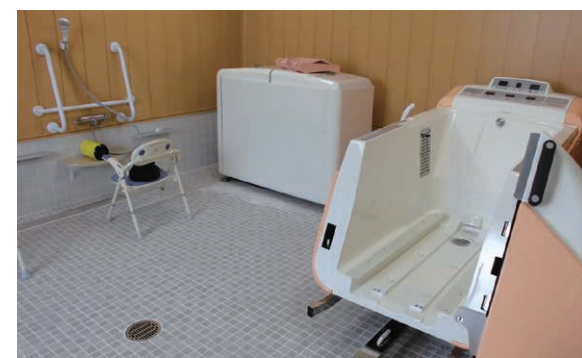


かつらぎ日中活動場所(通称:せるふ)

新規施設モックアップ



※モックアップ:実物とほぼ同様に似せて作られた模型



特殊浴槽

改革Ⅲ

事業団の自立民営化

事業団は、金剛コロニーを運営するため、1969(昭和44)年大阪府の全額出資のもと社会福祉法人として設立されました。当時は、障害者施設の基盤整備が十分ではなく、公的な責任のもと知的障がい者の施設入所ニーズに応える必要がありました。以後、富田林市を拠点として金剛コロニーの受託運営を担い、1993(平成5)年には大阪府立明光ワークスの受託運営を開始する等、箕面市に事業範囲を拡大し、法人設立から約35年にわたり府立施設の受託運営を主たる役割として運営してきました。

その運営方法は、国が示す「社会福祉事業団等の設立及び運営の基準について(通称「46通知」)」に基づくもので、理事長をはじめとする幹部役職員の人事や、予算及び決算についても大阪府の承認が必要であり、事業団の職員の処遇は、大阪府の職員に準ずるものでした。さらに、府から受託する施設の運営基準は府に

よって定められており、法人が自主的な経営を行うことは求められていませんでした。一方、その運営費のうち障害福祉サービス費等国の基準で定められた収入を上回る差額を府からの委託料や補助金により充当することで、収入の多寡に関わらず安定した運営を確保できたため経営を意識する必要もありませんでした。当時、金剛コロニーの総事業費は約50億円で府からの委託料約25億円が充当されていました。

民間施設の整備が進み、サービスの担い手の中心は民間法人へと移行するなど府立施設としての役割が低下していく中で、府立施設は施設種別や運営手法の見直しなどを行い、民間で対応可能な分野は、順次民間移行を進めるとの府の方針のもと、施設の民営化と法人の民営化を一体的に進めていくこととなりました。

自立民営化の方策として、主に以下の4点に取り組みました。

・事業規模の拡大

法人の経営基盤を安定化させるため、再編を進めると同時に事業規模を拡大しました。2003(平成15)年当時、金剛コロニー等事業団が受託運営する府立施設利用者の定員は960人でしたが、2017(平成29)年には事業団の運営する事業所の利用者は1,500人を超え、事業規模は約1.5倍に拡大しました。

・職員の加配解消

当時、知的障害者更生施設等入所施設の職員配置基準は利用者4.3人に対して職員1人でした。これに対して、金剛コロニーの職員配置は概ね利用者2人に対して職員1人で、配置基準を大きく上回る職員を配置していました。

一方、当時の重症心身障害児施設の職員配置基準は概ね利用者1人に対して職員1人で、特別養護老人ホームの職員配置基準は利用者3人に対して職員1人、さらにユニット制にすることで報酬単価を上げ概ね利用者1.7人に対して職員1人の配置としました。また、障害者支援施設については、人員配置体制加算の取得により報酬単価を上げ、概ね利用者1.7人に対して職員1人の配置としました。利用者の様態に応じた施設種別を選択することと同時に職員の加配解消を図りました。

・職員の非正規化

金剛コロニーは開設当初より、職員全員を正規職員で配置してきました。しかしながら、府の財政状況の悪化により2002(平成14)年頃から計画的に非正規化を図ってきました。

再編整備により整備した事業所は開設当初から民営ベースで運営するため、国基準のサービス費等収入の範囲内で経営できる正規職員と非正規職員の配置としました。

・職員の給与見直し

当時、事業団職員の給与は46通知に基づき大阪府に準じた制度となっており、民間の社会福祉法人と比べると極めて高い水準でした。

民間ベースで持続運営可能な状態となるように、職員の給与見直しを行いました。

2004(平成16)年7月に事業団独自の給与制度を導入し、基本給、賞与及び各種手当について激変緩和措置を講じながら削減しました。

また、退職手当についても府に準じた制度となっておりましたが、民営化を目指し給与制度の改正を含めた経営改善を進めていくことを考慮すると毎年退職手当引当金を積み立てていくことは困難であったため、福祉医療機構に加算して支給していた事業団支給額を固定し、以後退職手当引当金をさらに積み立てる必要のない制度に改めました。

職員にとって非常に大きな痛みを伴う経営改革を全うし、2017(平成29)年度法人の実質的な民営化を達成しました。

■事業規模拡大による事業団立施設の開所

竣工・開所式



ワークさつき(2006年)

地域生活総合支援センターワークくみのき
移転(2016年)

地域生活総合支援センターいま(2016年)

地域生活総合支援センターきらら(2008年)



旧富田林保健所河内長野支所地



開所時



事業所看板変更後



現状

大阪府立金剛コロニー再編整備の年表

時期	大阪府の動向	拠点施設整備
1998年 (平成10年)	「府立社会福祉施設等のあり方検討会報告」 ・民間でも対応可能な機能は、府域に分散する	—
2001年 (平成13年)	「大阪府行財政計画(案)」 ・施設種別や運営手法の見直しなどを行い、民間で対応可能な分野は、順次、民間移行を進める	—
2003年 (平成15年)	3月)「第3次大阪府障害者計画」 ・大規模施設を解消し、地域に施設を整備する ・利用者の状況を踏まえ、望ましい施設種別へ転換する ・在宅の障害者への自立生活に向けたトレーニングの場とする 12月)「府立金剛コロニーの今後のあり方について(案)」 ～地域生活支援の拠点整備と障害者ニーズに合ったサービスの提供～	—
2004年 (平成16年)	「大阪府行財政計画(案)」 ・金剛コロニーの再編整備をすすめ、事業収支の均衡による経営基盤が安定した段階で法人を民営化する	—
2006年 (平成18年)	—	7月) ワークさつき開所(定員60人)【泉州区域(旧和泉保健所泉大津支所地)】
2007年 (平成19年)	「府立知的障害者(児)大規模入所施設【砂川厚生福祉センター、金剛コロニー】の再編について」 ～障害者自立支援法を踏まえた府立施設の再編整備方針(案)～	—
2008年 (平成20年)	—	4月) 地域生活総合支援センターきらら開所(定員50人)【南河内南区域(旧富田林保健所河内長野支所地)】
2009年 (平成21年)	—	4月) 地域生活総合支援センターおんど開所(定員60人)【中河内・南河内北区域(府営松原上田住宅地)】
2010年 (平成22年)	「大阪府財政構造改革プラン」 金剛コロニーについては、地域生活への移行の受け皿となる拠点施設の整備など再編整備を進め、29年度の民営化をめざす	—
2011年 (平成23年)	—	4月) 地域生活総合支援センターあい開所(定員60人)【豊能・三島区域(府営茨木玉櫛住宅地)】
2012年 (平成24年)	—	—
2013年 (平成25年)	障がい児施設については、民間施設で対応困難な児童を支援する特化型施設を府立民営で運営するとの方針案が示される	—
2014年 (平成26年)	「大阪府立金剛コロニー基本構想」 ～再編整備に向けた施設配置やインフラ整備のあり方～	—
2015年 (平成27年)	—	—
2016年 (平成28年)	—	4月) 地域生活総合支援センターいま開所(定員60人)【北河内区域(府営守口寺方住宅地)】 4月) 地域生活総合支援センターワークくみのき移転開所(定員60人)【南河内南区域(大阪狭山市)】
2017年 (平成29年)	「大阪府立金剛コロニー」を「大阪府立こんごう福祉センター」に改称	4月) 地域生活総合支援センターきらら新築開所(定員60人)
2019年 (平成31年) (令和元年)	—	—
	—	定員合計 410人

グループホーム整備	地域移行者数	金剛コロニー内施設整備	金剛コロニー
—	—	—	—
—	—	—	—
—	—	—	—
—	—	—	—
—	63人	—	※定員及び実員は4月1日時点 成人 定員750人 実員 697人
—	52人	4月) 重症心身障害児施設(すくよか)開所(定員100人)	成人 定員620人 実員 600人
—	37人	4月) 特別養護老人ホーム(かなびのさと)開所(定員80人)	3月) けやき寮閉寮 成人 定員540人 実員 476人
4月) たいこ、つづみ、おはやし開所(定員30人)【中河内・南河内北区域(府営松原上田住宅地)】	42人	4月) すくよか定員変更(定員105人)	3月) ひのき寮閉寮 成人 定員470人 実員 438人
—	43人	—	3月) 若松寮閉寮 成人 定員406人 実員 384人
4月) おひさまハウス、ひだまりハウス、こもれびハウス開所(定員30人)【豊能・三島区域(府営茨木玉櫛住宅地)】	34人	—	成人 定員364人 実員 340人
4月) ペンギン開所(定員10人)【泉州区域(府営和泉伯太住宅地)】	26人	—	成人 定員364人 実員 301人
—	32人	—	成人 定員316人 実員 262人
—	16人	—	3月) かしのき寮閉寮 成人 定員280人 実員 222人
—	48人	—	成人 定員260人 実員 202人
4月) ほほえみ、のびのび、かたらい開所(定員30人)【北河内区域(府営守口寺方住宅地)】 4月) かがやき、きらめき開所(定員20人)【南河内南区域(大阪狭山市)】	17人	4月) 障害者支援施設(こんごう)開所(定員60人)	3月) もみのき寮閉寮 成人 定員120人 実員 103人
4月) きらら開所(定員10人)【南河内南区域(旧富田林保健所河内長野支所地)】 4月) スイートビー開所(定員10人)【南河内南区域(府営富田林西板持住宅地)】	7人	4月) 障害者支援施設(かつらぎ、にじょう)開所(定員120人)	3月) くすのき寮閉寮 成人 定員20人 実員 5人
4月) しろくま開所(定員10人)【泉州区域(府営和泉寺田住宅地)】	1人	—	—
定員合計 150人	合計 418人	定員合計 365人	—

大阪府障害者福祉事業団検定

Q11

こんごう福祉センター内で運営していた保育所の名称は？

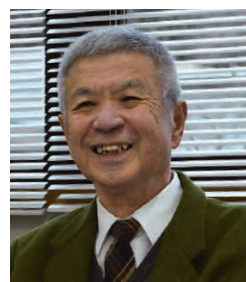
大阪府障害者福祉事業団検定

Q12

以前、金剛コロニーに配置されていた公用車は次のうちどれ？
①消防車 ②救急車 ③パトカー

自立民営化を語る 座談会

大阪府障害者福祉事業団の50年の歴史を語るにおいて、絶対にはずせないことが「自立民営化」である。全国でも類を見ない規模のコロニーとして誕生してから、時代の変遷とともに有り様を変化し続け、時代のニーズに応える形で成し遂げた「自立民営化」。ここではコロニー開設当初から運営に携わってきたOBの方々と交えて、「自立民営化」に至るまでの道のりを振り返ってみたい。



運営協議会委員
(元コロニー長)
西村 英八郎



評議員
社会福祉法人阪南福祉事業会
あゆみの丘施設長
(元企画調整室長)
白土 隆司



評議員選任・解任委員会委員
(元事務局次長)
大平 浩



理事
みなみおおさか福祉センター長
じょうライフだいせん所長
板橋 裕二



にじょう施設長
阪口 勉



茨木市立障害福祉センター
ハートフル所長
原 稔



【司会・進行】
理事
指導監査室長
岩城 由幸

第1章

初期の事業団の記憶 コロニーにまつわる エピソード

【司会・進行】 岩城室長

岩城 本日、司会進行を務めさせていただく岩城です。どうぞよろしくお願いいたします。大阪府障害者福祉事業団50年の歴史の中で、もっとも大きな変革が平成29年の「自立民営化」です。今日はその当時を振り返り、皆様のご苦労や思い出、今後の課題など、民営化にまつわるご意見を賜りたいと思います。まずは順番に、入職時の状況等をお聞かせください。

西村 私は退職して15年になるので、昔話で恐縮なのですが、最初は「くすのき寮」に指導員として配属されました。その後、「かしのき寮」へ異動しまして、平成12年からコロニー次長をしておりました。

岩城 当時のコロニー長は大阪府から出向で来られていた方ですね。

西村 はい、その頃は出向の方が多くおられましたが、とても優秀な方ばかりで、多くのことを教えていただきました。特

に児童相談所で専門職だった方や、中央児童相談所の所長になられたばかりの方など、知識が豊富で学ぶことがいっぱいでした。また、法人事務局へ出向しておられる方は経営面で高いスキルをお持ちで、ずいぶんと吸収することが多かった記憶があります。

白土 私もほぼ同世代で、退職して14年になります。昭和48年に「かしのき寮」、その後は判定観察課という部署に異動になりました。これは民営化で失われた部署の一つですね。それから企画調整室へ移り、昭和の最後は「もみのき寮」で迎えました。最後は平成10年に再び企画調整室へ。室長として戻りました。

大平 私は昭和47年入職です。児童寮に5年ほど、その後は企画調整室に異動し、8年。その間、大阪府に1年ほどお世話になり、様々なことを教えていただきました。その後は判定観察課から「しいのき寮」。また児童寮でしたが、当時は地域交流行事が活発だったことを覚えています。

岩城 具体的にはどんな行事だったのですか。

大平 「ちびっこ療育キャンプ」といって、大学生の方にサポートしてもらい、テントを張ってキャンプをしたりしました。今では許可が下りないですね。当時一緒にキャンプをした大学生の方とは、今も付き合いがありますよ。そういう大らかな時代でした。それから経理課へ。実は経理は未経験で、最初は戸惑いましたが、3年ほどやらせていただ



自立民営化を語る
座談会

きました。そして、すぎのき寮長として再び現場へ。生活支援部長を経て最後は事務局次長として退職まで勤めました。

原 現在、茨木市のハートフルにおります。一昨年、入職30年の表彰を受けました。「すぎのき寮」「くすのき寮」といった更生寮でそれぞれ10年ほど勤め、白土室長のご退職と入れ替わりで企画調整室に異動になりました。その時、白土室長から「昼は建物管理と施設管理、夜は地域移行を頑張れ」とお声をいただき、最初は自分にできるか不安でしたが、中間コーディネイト役として、また地域の受け皿としてやらせていただきました。

岩城 地域移行に関しては、アンケート調査などもされたんですよ。

原 はい、お一人ずつアンケートをとったり、グループホーム全てのドアを叩いて利用者のご様子を伺ったりと、大変でしたけれど貴重な体験だったと感じます。今日は皆さんにも、どんな思いで利用者を送り出されたのか、お聞きできたら嬉しいです。

阪口 私は現在、一番新しくできた施設「にじょう」で施設長をさせていただいております。入職は38年前、児童寮の「しのき寮」でした。当時の子どもさんは非常に元気で、今では考えられないほど活発に活動していました。その後は、「かしのき寮」へ。平成7年に突然「明日から地域福祉課へ行って」と言われ異動になったのですが、今という相談支援事業のコーディネーターに任命され、最初は手探りでスタートでした。それから事務局を経て、「地域生活総合支援センター「ゆう」」へ。グループホームの最前線で貴重な体験をさせていただきました。

岩城 では、最後に板橋さん、お願いします。

板橋 はい、私は昭和63年5月の採用です。授産課という日中部署でした。6年いた最後の年に、当時課長の西村さんの計らいで1か月秩父学園に研修へ行かせていただきました。そこでは、全国の施設職員と情報交換することができ、とてもよい勉強になったことを覚えています。その後は、「もみのき寮」に3年いて、あとは平成27年までずっと事務局です。人事、経営企画に携わってましたので、民営



化に関しては労務関係、特に給与体系の刷新、「すくよか」の立ち上げにともなう医療職の確保などが、大変だったと記憶に残ってます。

岩城 今は、堺の「じょぶライフだいせん」ですね。

板橋 そうです、平成28年から。コロニー再編で地域に移行された方々を、みなみおおさか福祉センターの各事業所で支援させていただいていますが、やはり皆さん年齢が高くなってきています。なので今度は逆に、グループホームでどのように適切な支援をしていくのか、課題として考えている状況です。その一番難しい時期に、西村さん、白土さん、大平さんにはお世話になりました。夜中に話を聞いていただいたことも、一度や二度じゃないです。そのとき適切なアドバイスをいただいたお陰で、今があるのかなと思います。本当にありがとうございました。

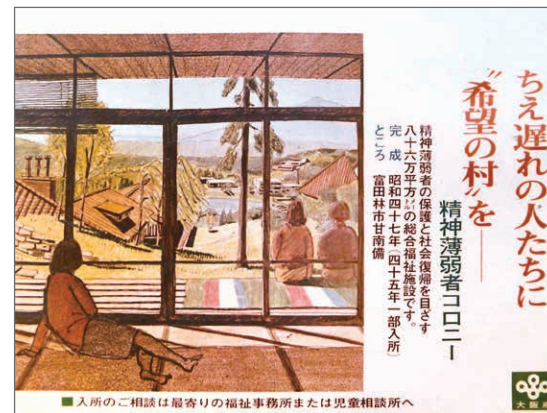
岩城 こうしてお話を伺ってみると、やはり昭和から平成ですと、今とは少し時代が違いますね。それぞれ皆さん、各自の持ち場で頑張ってこられたんだと、ひしひしと伝わるものがあります。また、先輩から教えてもらったことも、宝になっている方が多いようです。福祉の世界も時代とともに変わってきましたが、額に汗して得てこられた皆さんの経験は、ぜひこれから令和の時代でも受け継いでいってほしいと願います。

第2章 押し寄せる時代の波 自立民営化への 舵取りが始まる

岩城 では、今度はいよいよ民営化真っ只中のお話をお聞かせいただきます。平成9年に社会福祉基礎構造改革の報告が出て、社会福祉法人全体が対応を迫られる時代の流れがありました。皆さんも民営化の少し前から、そのような変化を意識されていたのではないのでしょうか。

大平 意識の変化はかなり早い段階で始まっていたと思います。我々は、昭和45年のスタート当初から大規模なコロニーの中で、いかにノーマライゼーションを実現するかを考えていて、その延長線上にある職能、授産、職場実習を、地域の中でどう活かすかを目指していました。

白土 私の場合は大規模コロニー解体にあたり「コロニーって何だったんだろう」ということを考え直しました。そもそも保護者の請願により叶った施設で、当時の絵はがきにその頃の言葉で「ちえ遅れの人たちに希望の村を」と書いてあります。これが保護者のイメージだったわけです。そしてコロニーには三大理念があり、一つ目は小規模な居住単位。二つ目は処遇の二分化。これは居住と日中活動の場を完全分離することです。三つ目が入所待機者指導制度。待機者が出るのを見越して、その期間中をフォローしようという制度ですね。



▲精神薄弱者コロニーの絵はがき

西村 三大理念の中でも二分化処遇は非常に重要で、コロニー開設以来ずっと続いていたものですが、平成15年に廃止になって、我々には大きなショックでした。もうコロニーがなくなってしまうんじゃないかと思うくらい。



大平 そのことを白土さんが『^{しょうり}照裏』という機関紙に書いておられました。大阪府の財政逼迫、職員減、一方で利用者は高齢化して介護度は高くなる。その中でどう二分化処遇から一元化に持っていけばいいのか。

白土 『照裏』は所属の名を借りた個人紙？ 平成11年11月から月3回丸3年、福祉の大転換期、情報提供と職員意識の緩やかな変容が狙いでした。

岩城 大阪府の財政が逼迫していく中で、民営化の予感がありましたか。

白土 大規模施設解体の気運が平成7年頃から出て、地域福祉への移行推進の中で、世の中が変化していくムードは感じていました。そして平成3年にバブル崩壊、府も影響を受けるだろうと。

大平 平成10年に府の財政再建プログラムで措置費の上乗せがなくなり、コロニー検討委員会などで、従来のやり方でいいのかという問題は浮上しました。ただ、その頃の大阪府は、まだ民営化までは結めていなかったと思います。

岩城 しかし平成13年頃から、さらに財政状況が悪化し、矢継ぎ早に改革案が出てきたと思いますが、現場ではどんな感じでしたか。

大平 急激な動きが起こるとは思っていませんでしたが、社会福祉基礎構造改革などの流れの中で、我々も何か考えなきゃいけないのかなという雰囲気はあったと思います。その後です、いよいよ状況が変わってくるのは。

阪口 私はその頃は、地域の方々と一緒に仕事をさせてもらっ



ていたものもあるんですが、現場ではまだ、民営化とか自主運営については、考えてなかったというのが正直なところですね。

白土 平成15年に経営企画室ができて、再編を進めていたのがそこですから、苦労されたと思いますよ。経理とかも。

大平 新給与制度の導入や退職金の処理など、職員に理解してもらうため、矢面に立って説明が必要でしたしね。平成15年から支援費制度もスタートして、いろんなところが変わっていきました。

白土 契約制度に変わっていろいろ厄介なことも出てきました。その一つが利用者のお小遣い管理のことです。保護者会におすがりしてなんとか急場を凌げました。その延長線上で『NPOかんぱの丘』も立ち上がって、それで今多くの方々への成年後見もできていますが。

板橋 私は労働組合との折衝でしたが、どう説得したら納得してもらえるのか、答えのない悩みを抱えていました。人事に関しても職員削減で、増員要求しても正規職員の退職を募って非正規職員を補充するため、ベテランがどんどん減っていく状況でした。

大平 労働組合に関しては、なんとか調整をしながら、ストライキではなく話し合いの中で行われました。まあ日本全国

が社会福祉基礎構造改革で、どこの事業団も苦しくて、大きなうねりが押し寄せてきているのは切実に皆さん感じていましたからね。

白土 我々の大先輩の「命と暮らしを守る、このよき風土を守りたい」という言葉が印象的でした。

原 平成19年3月に作成された『事業団の改革に向けて』を見たら、生活介護、特別養護老人ホームなどのあり方を検討するプロジェクトチームがいっぱいありますね。コロニーや自立促進センターの再編成なども。それを1つにする作業っていうのが大変だったんじゃないのかな。

岩城 その頃に撒いた種が、寄り集まって一本の大きな木になった感じかもしれないですね。でも現場はご苦労されたことと思います。

原 私もパニックでしたよ。一人ずつ地域移行のアンケートをとって、意思決定支援を始めたものの、300人以上も地域で住みたいと希望し、その一方でコロニーを終の棲家にしたい方も多くて、さあどうしようと。

西村 30年誌に利用者の声が載ってます。買い物行きたい、好きなもの食べたい、広い一人部屋が欲しい……などなど。集団生活では自由が制約されますからね。

阪口 地域移行支援センター事業の立ち上げも大変でした。最

初はまだ地域で生活できる方が多かったけれど、最後は入所施設でないと難しい方が残られ、その方々を地域へ送り出す段取りが大仕事でした。でも、説得するつもりで行った先で、地域の皆さんが我々を受け入れることを前提に話を聞いてくださって、その時は嬉しかったです。



▲地域移行支援センターだより

原 コロニーに在籍しながらお試しで地域生活をするランチホームで、利用者が定期券を自慢されるんです、外の世界につながるパスポートのように。私はそれが嬉しかったです。逆に、長期間コロニーにいる方は浦島太郎になっていることも。

阪口 ありますね。アパートの部屋でボウリングをして、騒音の苦情が出た方がいます。施設の中では当たり前でも、地域ではダメなことも多いですからね。

大平 民営化に向かう中で、やはりコロニー解体と地域移行は大仕事でしたよね。定員数の削減、そのためには能力的に難しい人でも更生寮へ行ってもらったり。利用者のことを考えると、今もどうだったんだろうって考えてしまいます。

岩城 大変な時代でしたね。貴重なお話、ありがとうございました。



第3章 自立民営化の光と影 今後の事業団の課題とその方策

岩城 次は民営化にまつわる「光と影」、良かったこと悪かったことについて、忌憚のないご意見を賜りたいと思います。

白土 公立の看板には二面性がある、無理を承知で程度の重い方の受入れなどもしなくちゃいけませんでした。しかし、同時に安心でもあったんです。職員にとっては紋所(もんどころ)、助けられている部分は大きかったです。それが民営になって、今度は競争力を高めていかなければいけない。同じ意識のままであればだめだと思います。

西村 最初にも言いましたが、公立の時代は大阪府からの向うの方に、教えを乞うことが多かったんです。民営になればその恩恵はなくなるわけで、これからどうなっていくのかと思うところはあります。

大平 自立民営化という前提があったからこそ、やり遂げられたこともありますよね。今までは大阪府に委ねていた部分を、重症心身障害児施設や特別養護老人ホームなど、利用者に安心して暮らしてもらえる施設を作るために、自分たちで動きました。どうしてその施設ができたのか、というのを忘れてはいけないと思います。

板橋 私は再編の時期に「この仕事は誰のためにやっているのか」を強く意識しました。「すくよか」という病院施設ができた時、現実的に民営化路線に舵が切られるのを感じましたが、やはり大切なのは箱物だけでなく中身。職員一人ひとりが、この施設をどう生かしていくか、事業所の理念を吹き込んでいく。それが本当のスタートなのかなと思っています。

岩城 差しあたったの課題はどんなことですか。

板橋 グループホームでしょうか。現在利用されている方を支援するとともに、どう地域と事業所で連携をしていくかが課題です。高齢化により事業団内の入所施設等へUターンされる方も、今後より一層増えると思込られます。

西村 先日、運営協議会の際に特別養護老人ホームへの待機者リストを見たら、懐かしい方々のお名前がありました。最高年齢83歳、そんな方々を民営化した施設でお迎えするのかなと思うと、これは大変だなと思いました。

岩城 利用者の高齢化は、今後の課題の大きな部分でしょうね。
板橋 そうですね。今は利用者の年齢も高くなって介護の必要もあります。しかし、以前のように医師がいつでも駆けつけてくれる状況ではなく、急変の際には職員が判断して救急車対応したり、すぐく大変ですし不安は否めません。

白土 そういう意味では、現在の「すくよか」の機能も、もっと充実できれば良いとは思ひます。もちろん今も頑張つてやっておられるのでしょうか。

板橋 機能が充実すれば、職員が安心して仕事ができますし、心に余裕ができることで表情にも表れると思うんです。それは利用者のためにもなりますしね。

原 急性期病院から退院された方など、やはり医療の機能は頼りでしょうからね。地域移行も同じで、単に地域に送り出すのではなく、意思決定支援をすることだと思います。その後もどうやって支援するか。民営化後、最後までやり遂げる責任感の重さを、今切々と感じているところですよ。

阪口 私の場合は、民営化して良かったところは、自分たちで施設をきっちり運営して、利用者の利益を考えるようになったことでしょうか。ただ、一方で民営化前は利用者の希望をどうにかして叶えるため、ぎりぎりまで頑張つて支援しろと教えられてきたんですが、民営化後は民間の施設と同様に、運営を考えると受入れが難しいケースも多くなつてきて、それは残念に思ひます。

岩城 運営に関しては、難しい問題ですよ。

阪口 職員にしても、非正規職員が多くなつて、中には福祉の仕事に不慣れな方もいますので、利用者のためにはどうなんだろうと。そうなると安全第一で守りに入ってしまうので、面白みのない生活になってしまわないかと考えてしまひます。

板橋 自分たちで考えて方針決定するようになったことは、私も民営化で良かったと思ひることです。ただ、それにはもっと若い職員を前面に押し出して、我々が後方支援す



ることで、もっと楽しくなっていくのかなと思ひますね。

岩城 若手の話が出ましたが、後進にどういふことを期待しますか。

西村 やはり専門家集団であつてほしいですね。あと、ホームページ。特に「丘のうえから」(コラム)は読みごたえがあつて面白ひです。どんどん記事を充実させていってほしい。私たち現場を離れた人間は、もうそれしか接点がないので楽しみにしてます。

白土 今はどこもそうですが、特に福祉は職員の採用が難しい業界です。でも、やはり仕事を選ぶときにはビジョンや将来像が重要になってくると思うので、うちの魅力はこれだ、というものを、真剣に考えてもらひたいです。あと、専門職の資格を取得するためのサポートをしっかりやってほしいです。サービス管理責任者も令和元年度から要件変更になつたし、府の後ろ盾がなくなった分、民間法人としてきちんと考えていかないといいけませんね。

大平 私は若手というより、平成12年から平成22年の激動の時期に、死に物狂ひで働いた職員に「皆さん、よく頑張りましたね」と労ひを申し上げたいです。あの時代を乗り越えたから今があります。あと、西村さんからよくお聞きする言葉で「昔は良かったと言わせるな」、この心意気で今後

も励んでいただきたいです。

白土 あの当時は、しんどい状況でしたよね。よく持ち堪えたなと思ひます。

大平 もう一つ、若い人たちにやってほしいことがありました。それは事務の経験。支援職の人は事務を重要視しない傾向があるけれど、事務職で鍛えられると起案文書を書くにしても、経理の数字を見るにしても、見方が変わってきますから。でも年を取つてからだと覚えるのに限界があるので、できれば若いうちに。

阪口 自分も含め、まだ府立の意識が強いので、職員は非正規職員も含め一緒に一つの車を動かしている意識を持つてほしいです。そしてOB職員は若い人の良きお手本になる必要があると思ひます。

岩城 今日はたくさん良いお話が聞けました。西村さんの「昔は良かったと言わせるな」というのは、未来に向けてモチベーションが上がる名言だと思います。その気持ちを大事にしながら、これからも皆さんにご活躍していただきたいと思ひます。今日は本当にありがとうございます。

一同 ありがとうございます。



施設紹介

P.32 こんごう福祉センター

- P.32 法人事務局
- P.33 すくよか
- P.34 かなびのさと
- P.35 こんごう
- P.36 かつらぎ
- P.37 にじょう
- P.38 大阪府立こんごう福祉センターしいのき寮
- P.39 大阪府立こんごう福祉センターすぎのき寮

P.40 きたおおさか福祉センター

- P.40 明光ワークス
- P.41 大阪INA職業支援センター
- P.42 地域生活総合支援センターあい
- P.43 地域生活総合支援センターいま
- P.44 大阪府立稲スポーツセンター
- P.45 茨木市立障害福祉センターハートフル

P.46 みなみおおさか福祉センター

- P.46 地域生活総合支援センターワークくみのき
- P.47 ワークさつき
- P.48 じょぶライフだいせん
- P.49 地域生活総合支援センターきらら
- P.50 地域生活総合支援センターおんど



1969年頃撮影



2000年頃撮影



金剛コロニーから こんごう福祉センターへ

50年の歴史のなかで、大阪府立金剛コロニーは「こんごう福祉センター」へ名称を変更。さらに「きたおおさか福祉センター」「みなみおおさか福祉センター」と地域へ展開し、利用者の状態に応じたさまざまな福祉サービスを提供しています。
全18事業所、それぞれ特徴の異なる各施設をご覧ください。

こんごう福祉センター

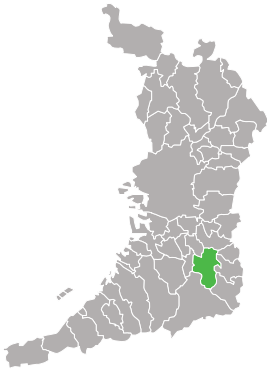
法人事務局



所在地：富田林市大字甘南備216番地

事業所名	事業開始日	
法人事務局	1969/4/1	総務課
		人事課
		事業課
		人権啓発室
指導監査室	2019/4/1	—

理事会、決算等法人運営業務を担う総務課、給与・福利厚生等職員に関する業務を担う人事課、より良いサービス提供のため事業を推進する事業課が相互に連携し、全ての事業所が主体的かつ効率的に運営できるよう日々取り組んでいます。また、運営部門から独立した機関として、指導監査室を設置し、ガバナンス強化に努めています。



大阪府障害者
福祉事業団検定

Q13

1984(昭和59)年、金剛コロニーの利用者が作った野菜や作品の販売を地域で始めた時のお店の名称は？

すくよか



所在地：富田林市大字甘南備216番地

事業所名	事業開始日	実施事業	定員
すくよか	2007/4/1	医療型障害児入所施設・療養介護	105
		短期入所	5
		外来診療	—
		訪問看護	—

「医療と福祉の融合」をコンセプトに、生活に即した支援を提供し、健やかな心身の成長を支援する施設を目指しています。医療・看護・リハビリテーション・療育・福祉の多職種が連携して重い障がいのある方たちの生活を支えています。「不如人和」(人の和にしかず)をモットーに団結力を大切に支援しています。



大阪府障害者
福祉事業団検定

Q14

昭和の時代、授産課で飼育し販売していたのは次のうちどれ？
①蚕を飼育し絹製品 ②鶏を飼育し卵 ③みつ蜂を飼育し蜂蜜

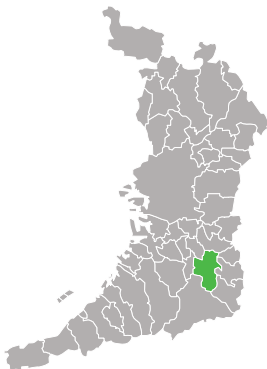
かなびのさと



所在地：富田林市大字甘南備216番地

事業所名	事業開始日	実施事業	定員
かなびのさと	2008/4/1	特別養護老人ホーム	80
		短期入所生活介護・ 介護予防短期入所生活介護	20
ケアプランセンターかなびのさと	2016/8/1	居宅介護支援事業	－

「おおらか」自然に満ちた環境、「心地よさ」自分の家にいるかのような快適さ、「楽しさ」想いやりあふれるサービスや楽しい行事、この三つの柱で、健やかで笑顔いっぱいの毎日をサポートしています。自然に満ち、人とのふれあいがあふれ、健やかな毎日を見守る、豊かな環境の中で我が家のようにのびのびと充実した暮らしをしていただく「しあわせに満ちたくらし」を目指しています。



こんごう



所在地：富田林市大字甘南備216番地

事業所名	事業開始日	実施事業	定員
こんごう	2016/4/1	施設入所支援	60
		生活介護	80
		短期入所	3
		日中一時支援	6
ゆめ	2018/4/1	共同生活援助	28

地域の社会資源やサービスでは地域生活の継続が難しい、高齢の知的・視覚・行動障がいのある方を対象に、利用者一人ひとりのニーズにあった支援を心がけています。「いつまでも健康に！」を合言葉に、大自然の中での散歩や食事支援を中心とした健康管理に重点を置いています。地域交流として多くのボランティアの受入れを実施するなど、開かれた施設を目指しています。



大阪府障害者福祉事業団検定 **Q15** 春になると、こんごう福祉センターのせせらぎに設置されていた物は？

大阪府障害者福祉事業団検定 **Q16** 旧総合管理棟跡地の広場の名称は？

かつらぎ

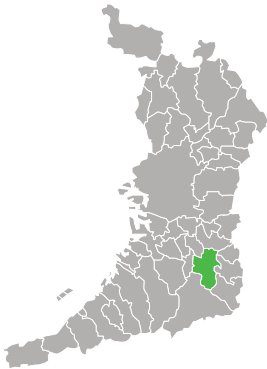
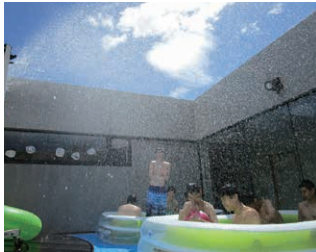


所在地：富田林市大字甘南備216番地

事業所名	事業開始日	実施事業	定員
かつらぎ	2017/4/1	施設入所支援	60
		生活介護	60
		就労継続支援B型	20
		短期入所	3
		日中一時支援	6
ゆう	2018/4/1	共同生活援助	30

地域の社会資源やサービスでは地域生活の継続が難しい、発達障がいや行動障がいのある方などを対象とし、TEACCHプログラム(※)の考え方を基本とした支援の提供を行う施設入所と、在宅障がいのニーズに適切に応えるためのサービスを展開し、利用者本位の包括的な支援を行っています。就労継続支援B型の『もっと』では、『もっと働きたい』という利用者の皆さまの想いを形にしています。

(※)主に自閉症スペクトラム児・者を対象とした療育方法として、アメリカノースカロライナ大学で研究・開発されたもので、アメリカノースカロライナ州において自閉症スペクトラム児・者への公式プログラムとして採用されている。「自閉症の特性理解」「個別の正確な評価」「構造化された指導方法」等の基本理念に基づいた包括的な取組み。



大阪府障害者
福祉事業団検定

Q17

金剛コロニーに来所した野球選手の名前は？

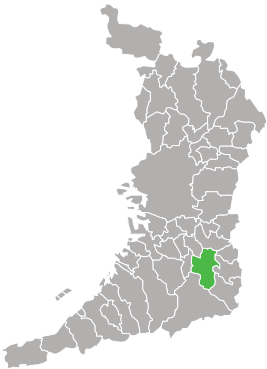
にじょう



所在地：富田林市大字甘南備216番地

事業所名	事業開始日	実施事業	定員
にじょう	2017/4/1	施設入所支援	60
		生活介護	80
		短期入所	3
		日中一時支援	6
ゆい	2018/4/1	共同生活援助	30
相談支援センターあーる	2006/10/1	一般相談支援	—
		特定相談支援	—
		障害児相談支援	—

「ゆとりと楽しみのある暮らしづくり」をテーマに、利用者の意向に沿った生活を自ら実現できるように支援しています。高齢で高介護が必要な障がいのある方が、健康の維持・管理・増進を図り、その人らしく生きていくための支援と、地域のセーフティネット機能としての役割を果たしています。



大阪府障害者
福祉事業団検定

Q18

コロニーまつりに出演した、有名人の名前を3人あげよ。

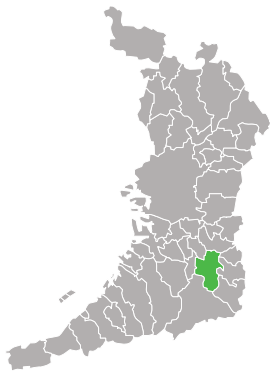
大阪府立こんごう福祉センターしいのき寮



所在地：富田林市大字甘南備216番地

事業所名	事業開始日	実施事業	定員
大阪府立こんごう福祉センター しいのき寮	1970/4/1	福祉型障害児入所施設	50
		短期入所	空床型
		施設入所支援	10
		生活介護	10

「明るく、元気に、いきいきと」を支援の基本として、心理学の知識や諸技法を活用した専門的支援と利用者の気持ちに寄り添った温かい支援を心がけています。「福祉」(ふだんのくらしをしあわせに)を大切に、生活習慣の獲得と個別の特性理解、人付き合いの土台となるルールの獲得等、発達段階に応じた支援をしています。



大阪府障害者
福祉事業団検定

Q19

すくよかが設置されている場所には、もともと何があった？

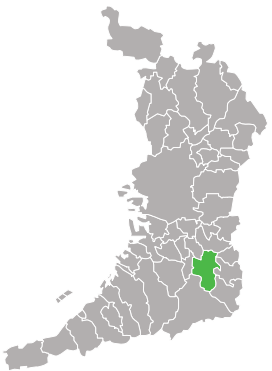
大阪府立こんごう福祉センターすぎのき寮



所在地：富田林市大字甘南備216番地

事業所名	事業開始日	実施事業	定員
大阪府立こんごう福祉センター すぎのき寮	1971/4/1	福祉型障害児入所施設	30
		短期入所	空床型
		施設入所支援	10
		生活介護	10

「スマイル」をモットーに、明るく元気で、笑顔を支援の根幹として、重い知的障がいのある方々が、人としての尊厳が守られ、その人らしくいきいきと生きることができるように、TEACCHプログラムの考え方を基本として、障がい特性に配慮した専門的な支援をしています。また、地域生活に移行するため、社会性の獲得に向けた取組みを重点的に進めています。



大阪府障害者
福祉事業団検定

Q20

すくよかの診療科目の数は？

きたおおさか福祉センター

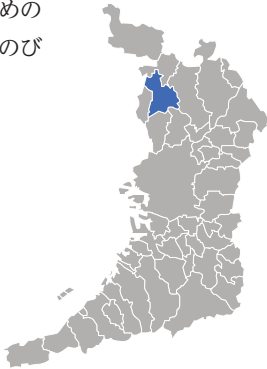
明光ワークス



所在地:箕面市稲六丁目15番26号

事業所名	事業開始日	実施事業	定員
明光ワークス	1993/4/1	生活介護	40
		自立訓練（生活訓練）	20
		就労移行支援	20
		就労継続支援B型	40
		就労定着支援	—
		日中一時支援	12
あいあい・ほくせつ	2002/4/1	共同生活援助	90
こども発達支援センター青空	2007/5/1	児童発達支援・放課後等デイサービス	10
		保育所等訪問支援	—
相談支援センターみーな	2014/4/1	一般相談支援	—
		特定相談支援	—
		障害児相談支援	—

創作・余暇・生産・学習支援などの活動の場、社会生活への準備をする学びの場、わたしらしく生きるための地域生活の場、地域の中で安心して生活できるよう皆さまのお声を聴く場、こどもが楽しみながらのびのびと成長できる場。一人ひとりが生涯輝けるよう、児童から大人へのステップを応援しています。



大阪府障害者福祉事業団検定

Q21

かんなびのさとで療育手帳を所持している利用者（入居者）の割合は？

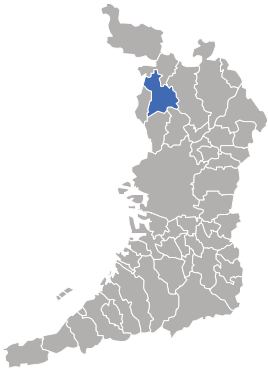
大阪INA職業支援センター



所在地:箕面市稲六丁目15番26号

事業所名	事業開始日	実施事業	定員
大阪 INA 職業支援センター	1995/4/1	障害者特別委託訓練施設（職業訓練） パン・菓子製造、園芸、 グリーンハーベスト科	30

パン・菓子の製造や、草花・農作物の栽培を通じて、自然に触れ、作り育てる楽しさ、喜びを感じていただいています。「失敗しても大丈夫？」「働くのが不安…」働くことについて考えたり、悩んだりしながら、毎日の積み重ねで少しずつ増えていく『できる!』を、働いていく『自信』や『やる気』につなげ、「働きたい」という気持ちを育んでいます。



大阪府障害者福祉事業団検定

Q22

毎年春になると、巣作り&子育てのために、かんなびのさとに帰ってくる鳥の名前は？

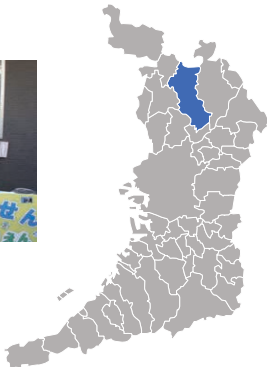
地域生活総合支援センターあい



所在地:茨木市玉櫛二丁目5番8号

事業所名	事業開始日	実施事業	定員
地域生活総合支援センターあい	2011/4/1	生活介護	45
		就労継続支援B型	15
ショートステイあい	2005/7/1	短期入所	10
あいあい・みしま		共同生活援助	60
こども発達支援センター風		児童発達支援・放課後等デイサービス	15
相談支援センターリーベ	2007/4/1	保育所等訪問支援	—
		一般相談支援	—
		特定相談支援	—
		障害児相談支援	—

「まず受け止める」「ニーズに合わせた支援」「チームワークを大切に」「支援の中にアイデアを」。あいでは、この四つの考えを大切にしています。ライフステージごとに発達課題や支援課題を捉えトータルな支援をしていくとともに、地域との交流を深める行事に積極的に参加するなど地域に根ざした活動や多くの行事開催を通して、あいの魅力を発信しています。



大阪府障害者
福祉事業団検定

Q23

こんごうのユニットには「はな」「ゆき」「つき」「そら」があるが、
日中活動の食堂の名称は次のうちどれ？ ①かぜ ②くも ③ほし

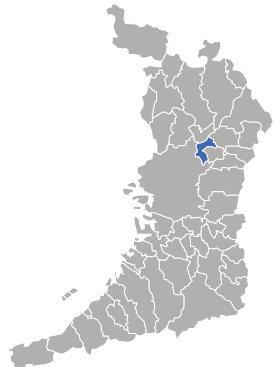
地域生活総合支援センターいま



所在地:守口市寺方本通二丁目20番4号

事業所名	事業開始日	実施事業	定員
地域生活総合支援センターいま	2016/4/1	生活介護	40
		放課後等デイサービス	10
ショートステイいま		短期入所	10
ほほえみ		共同生活援助	30
相談支援センターみらい		一般相談支援	－
		特定相談支援	－
		障害児相談支援	－

学齢期から高齢の方までが、同じ空間で交流しながら過ごしています。同じ空間で「いま(現在)」を元気で楽しく、生きがいを持てるように支援をしています。また、グループホームでは、和やかにゆっくりと生活ができ、「いま(団楽)」な時間が過ごせるよう、取り組んでいます。



大阪府障害者
福祉事業団検定

Q24

かつらぎには TEACCH プログラムにおける構造化を取り入れ、主に強度行動障がい
有する自閉症の方々への支援に特化した日中活動の場がある。その名称は？

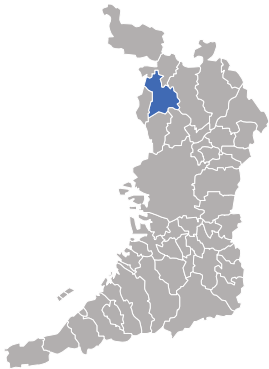
大阪府立稲スポーツセンター



所在地:箕面市稲六丁目15番26号

事業所名	事業開始日	実施事業	定員
大阪府立稲スポーツセンター	1996/4/1	スポーツ教室	—
		文化・レクリエーション教室	—

障がい者の社会参加の促進とQOL(生活の質)の向上をめざし、障がいのある方をはじめ、広く人々との交流を図りながら、スポーツ・レクリエーション活動や文化活動の場と機会を提供している施設です。活動が始めるきっかけ作りから上級者・競技者の育成まで、多くの方々に満足していただけるよう、また、身体を動かす喜びを感じていただけるよう、楽しいプログラムを提供しています。



大阪府障害者
福祉事業団検定

Q25

にじょうの名前の由来となった二上山(雄岳)の標高は次のうちどれ？
① 959 m ② 1,125 m ③ 517 m

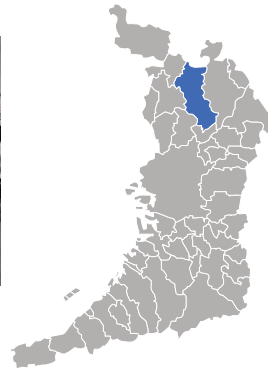
茨木市立障害福祉センターハートフル



所在地:茨木市片桐町4番26号

事業所名	事業開始日	実施事業	定員
茨木市立障害福祉センターハートフル	2014/4/1	地域活動支援センターⅡ型	(午前 25、午後 25)
		入浴サービス	—
		各種講座	—
		貸室	—
生活介護ハートフル	2015/10/1	研修及び啓発事業	—
		生活介護	20

障がい者が市民活動を行う拠点施設としてオープンしました。障がいのある方、ない方が、交流を深める場所であり、生涯学習の活動場所でもあります。障がいがあってサポートが必要な方、生活機能の維持・リハビリを行いたい方、自宅での入浴が困難な方、団体活動のためにお部屋を借りたい方へ、ハートフル(heartful)な支援を、そして、障がいのある方もない方も楽しく参加できるさまざまな講座や研修を提供しています。



大阪府障害者
福祉事業団検定

Q26

にじょうで仰臥位浴槽(機械浴)が設置された浴室の別名は？

みなみおおさか福祉センター

地域生活総合支援センターワークくみのき



所在地：大阪狭山市東菜葉木三丁目2153番地

事業所名	事業開始日	実施事業	定員
地域生活総合支援センター ワークくみのき	2003/12/1	生活介護	30
		就労継続支援B型	30
かがやき	2016/4/1	共同生活援助	51
相談支援センターぱるぱる	2006/3/1	一般相談支援	—
		特定相談支援	—
		障害児相談支援	—
手をつなGO！	2010/4/1	大阪狭山市発達障がい児等支援	20

好きなこと、得意なこと、やりたいこと、挑戦してみたいことなど、一人ひとりのニーズに寄り添いながら、毎日楽しく活動できるよう支援しています。就労継続支援B型で生産するクッキーは「くみっきー」の愛称で親しまれ、「ナチュラル(自然)フレッシュ(新鮮)ヘルシー(健康)」をモットーに、高品質かつリーズナブルな商品を追及しています。



大阪府障害者
福祉事業団検定

Q27

しいのき寮の中庭に1986(昭和61)年度末まであった遊具を3つあげよ。

ワークさつき



所在地：泉大津市春日町23番3号

事業所名	事業開始日	実施事業	定員
ワークさつき	2006/7/1	生活介護	22
		就労継続支援B型	38
		日中一時支援	5
さつき	2005/7/1	短期入所	4
さざなみ		共同生活援助	50

泉大津市は昔から海上交通の拠点で、毛布やニットの町として栄えてきました。この町で障がいのある方や家族が日々元気で明るく、そして安心して暮らせるよう支援しています。「私らしく もっと私らしく」が合言葉。利用者の思いを実現するため、みんなでアイデアを出し合いながら楽しく活動しています。



大阪府障害者
福祉事業団検定

Q28

すぎのき寮の訓練班(昭和50年代)で育成し、コロニーまつりで大人気だった昆虫は？

じょぶライフだいせん



所在地：堺市堺区旭ヶ丘中町四丁2番1号

事業所名	事業開始日	実施事業	定員
じょぶライフだいせん	2007/4/1	施設入所支援	40
		生活介護	50
		就労移行支援	22
		就労定着支援	－
		短期入所	4
のどか	2006/5/1	共同生活援助	30
相談支援センター風車	2007/5/1	一般相談支援	－
		特定相談支援	－

緑豊かな環境のなか、人とひと、地域社会との「つながり」を大切に支援しています。障がいのある方々の「働きたい！働き続けたい！」という想いを応援するための就労支援『じょぶ』と、「自分らしく！安全・安心な暮らし」を実現するための生活支援を行う『ライフ』を柱に、利用者がいきいきと活動できる機会を提供しています。



大阪府障害者
福祉事業団検定

Q29

すぎのき寮の渡り廊下のフェンスは鳥が描かれている。その鳥の数は次のうちどれ？
① 16 羽 ② 32 羽 ③ 64 羽

地域生活総合支援センターきらら



所在地：河内長野市西之山町2番21号

事業所名	事業開始日	実施事業	定員
地域生活総合支援センターきらら	2008/4/1	生活介護	40
		就労移行支援	20
		就労定着支援	－
きらら	2005/7/1	共同生活援助	60
こども発達支援センター Sun	2005/4/1	児童発達支援・放課後等デイサービス	10
		保育所等訪問支援	－
こども発達支援センター mum	2016/9/1	児童発達支援・放課後等デイサービス	10
		保育所等訪問支援	－
相談支援センターカーナ	2010/7/1	一般相談支援	－
		特定相談支援	－
		障害児相談支援	－
相談支援センター mum	2016/9/1	特定相談支援	－
		障害児相談支援	－
南河内南障害者就業・生活支援センター	2001/5/14	－	－

発達へのサポートを必要とする児童や保護者、働くことを希望する方、地域での生活を望まれる方、日々の生活や仕事のことを相談したい方などそれぞれの思いを形にするため、互いの事業やケースを学び連携しながら支援しています。利用者のペースを尊重しながら、「暮らす・笑う・働く」をキーワードに、地域に貢献できる事業所でありたいと思っています。



大阪府障害者
福祉事業団検定

Q30

すぎのき寮に立つ杉の木は、1970(昭和45)年開催のイベントで使われたものを移植しました。そのイベントの名称は？

地域生活総合支援センターおんど



所在地:松原市上田八丁目7番16号

事業所名	事業開始日	実施事業	定員
地域生活総合支援センターおんど	2009/4/1	生活介護	40
		就労継続支援B型	20
		短期入所	10
おんど	2005/7/1	共同生活援助	54

「利用者が、自分らしく、安心して、笑顔で生活できる場所」というコンセプトのもと、利用者一人ひとりに合わせたサービスを提供しています。季節のイベントや音楽プログラム、外出など、利用者はもちろんスタッフも、みんなで楽しむことができる雰囲気を大切にしながら、快適で健康に過ごしていただけるようサポートしています。



大阪府立金剛コロニーの施設パース図



- 1 総合管理棟 (1969年)
- 2 しいのき寮 (1970年)
- 3 くすのき寮 (1970年)
- 4 職能訓練センター① (1970年)
- 5 職能訓練センター② (1970年)
- 6 授産所 (1971年)
- 7 ひのき寮 (1972年)

大阪府障害者福祉事業団検定 **Q31** 毎月、第1・第3水曜日に明光ワークス玄関ホールで開催しているイベントの名称は？

大阪府障害者福祉事業団検定 **Q32** 大阪INA職業支援センターのパン・菓子製造科の修了生のほとんどが、「一番印象に残っている製品は？」と聞かれて答える製品の名称は？

ライフステージに応じた福祉サービス

幼児期から青壮年期、高齢期にいたる利用者一人ひとりのライフステージとニーズに応じた支援を行える環境が整っています。

幼児期

学齢期

青壮年期

高齢期

● 児童発達支援

未就学の障がいのある児童への基本的な動作の指導、集団生活への適応訓練などを行います。

青空風Sunmum

● 放課後等デイサービス

授業の終了後や学校の休業日に生活能力の向上のために必要な訓練、社会との交流の促進など多様な支援を行います。

青空風いまSunmum

● 保育所等訪問支援

保育所等に通所する障がいのある児童、スタッフへの支援を行います。

青空風Sunmum

● 医療型障害児入所施設

すくよか

● 福祉型障害児入所施設

障がいのある児童へ生活上の支援やその他必要な支援を提供する入所施設です。

大阪府立いのき寮大阪府立すぎのき寮

● 自主事業

● 受託事業

● 公益事業

● 自立訓練（生活訓練）

入浴、排せつ、食事等自立した日常生活を営むために必要な訓練を行います。

明光ワークス

● 就労移行支援

就労に必要な知識及び能力の向上の訓練、求職活動、職場開拓に関する支援を行います。

明光ワークスきららじょぶライフだいせん

● 就労定着支援

就労の継続を図るための支援を行います。

明光ワークスきららじょぶライフだいせん

● 職業訓練校

大阪障害者職業能力開発校からの委託を受け、知的障がいのある方の職業能力開発訓練を行います。

大阪INA職業支援センター

● 療養介護

医療機関において生活上の支援を提供する入所施設です。

すくよか

● 施設入所支援

暮らしの場と生活上の支援を提供する入所施設です。

こんごうかつらぎにじょういまワークさつきじょぶライフだいせんおんど

● 就労継続支援B型

就労の機会と生産活動の場を提供し、次のステップを目指す支援を行います。

かつらぎ明光ワークスあいワークくみのきワークさつきおんど

● スポーツ・文化事業

スポーツ活動の場や文化教育プログラムの機会を提供し、社会参加の促進と自己実現を目指した取り組みへの支援を行います。

大阪府立稲スポーツセンター

● 共同生活援助（グループホーム）

地域での少人数の共同生活において、生活上の支援を行います。

ゆめゆうゆいあいあい・ほくせつあいあい・みしまほほえみかがやきさざなみのどかきららおんど

● 生活介護

入浴、排せつ、食事等の介護、創作活動や生産活動の機会の提供を行います。

こんごうにじょう明光ワークスあいいまワークくみのきワークさつきじょぶライフだいせんきららおんど茨木市立障害福祉センターハートフル

● 地域活動支援センターⅡ型

理学療法や作業療法による機能維持訓練や日常生活動作の練習等に支援を行います。

茨木市立障害福祉センターハートフル

● 居宅介護支援事業（ケアプランセンター）

要介護の認定を受けた方が最適な介護サービスを受けることができるよう支援します。

かなびのさと

● 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

65歳以上で、日常生活に支障がある方へ、日常生活上の介護、機能訓練、健康管理及び療育上の介護を行う施設です。

かなびのさと

● 短期入所生活介護

かなびのさと

● 介護予防短期入所生活介護（ショートステイ）

65歳以上で、自宅で介護を受けることが一時的に困難な方へ短期間生活上の介護を行います。

かなびのさと

相談支援（障がい児者）

障がい児者の自立した生活を支え、抱える課題の解決や適切なサービス利用に向けて、ケアマネジメントによりきめ細かく支援します。

みーなあーるかーなリーベばるばるmumみらい風車

すくよか外来診断（保険医療機関）

地域ニーズに応える施設として一般診療、リハビリテーションなどの多様なサービスを提供します。

● 内科● 婦人科● 小児科● 歯科● 耳鼻いんこう科● 循環器科● 精神科● リハビリテーション科● 外科● 整形外科● 訪問看護

大阪府障害者福祉事業団検定 Q33

大阪INA職業支援センターの園芸科が花を生活の中でも楽しむために取り組んでいる講座は何？

大阪府障害者福祉事業団検定 Q34

地域生活総合支援センターあいの整備型グループホーム3棟の名称で正しい組み合わせは次のうちどれ？
①ブリ、ハマチ、カンパチ ②ひまわり、あさがお、ばら ③おひさま、ひだまり、こもれび

52

53

知ってる!?

施設名の由来

大阪府障害者福祉事業団

(1996年4月)

「精神薄弱」に代えて「知的障害」を用いるべきとの近時の情勢と、「コロニー」に関わらず「明光ワークス」等の運営の委託を受けるなど新たな施設運営が求められている状況を勘案し、「大阪府精神薄弱者コロニー事業団」の名称を変更することが望ましいとしました。

新名称については、今後、知的障害者に限らず障害者全般の事業に関わっていく必要が求められていること、また、他の事業団等と混同しない名称で、当事業団の利用対象を明確に表すものであることを考慮に入れて検討し、「障害者の福祉を考える」というかなり大きな意味合いを持ったもので、誰にでも理解できる名称として、「大阪府障害者福祉事業団」としました。

すくよか

(2007年4月)

歴史物語「増鏡」の中で、1294(永仁2)年、河内国石川郡赤阪村(現南河内郡千早赤阪村)で生まれたといわれ、鎌倉時代後期から南北朝時代にかけて活躍した楠木正成(大楠公)について、「心猛くすくよかなるもの」と表されています。利用者の方々が心身ともに健やかに成長することを願い、名称を「すくよか」としました。

公募期間：H17.7.20(水)～H17.8.15(月)
 公募対象者：利用者、家族、理事、評議員、運営懇話会委員、職員
 公募方法：公募通知文及び「My Web」掲示板
 応募総数：38通

大阪INA職業支援センター

(1995年4月)

〔語源〕
 支援センター所在地の地名「箕面市稲(イナ)」から。
 〔理念〕
 I：independence「自立」
 N：normalization「地域生活」
 A：ability「能力」
 上記の語源並びに3つの理念から、「大阪INA職業支援センター」としました。

地域生活総合支援センターあい

(2011年4月)

入所施設利用者の地域生活への移行を担い、地元の障がい者支援においても広く知られていた「地域支援センターあいあいみしま」の名称から「あい」を継承し、また、利用者にとっても親しみやすく呼びやすいこと、さらに「あい」は支援のマニュアルだけに頼るのではなく「愛」を持って利用者に接し支援していきたいと考え、「地域生活総合支援センターあい」としました。

地域生活総合支援センターいま

(2016年4月)

一人ひとりの今(いま)を大切にすることで、今(いま)生きていることの喜びを感じてもらえる施設になること、また、家族団らんのある居間(いま)同様、集まって和やかに過ごしていただける場を提供できるように名称を「地域生活総合支援センターいま」としました。

地域生活総合支援センターワークくみのき

(2003年4月)

「くみのき」は、支援センター所在地の地名「大阪狭山市茱萸木」から。また、開所当時の施設種別が知的障害者通所授産施設であり主に就労支援を行っていたため、この事業所で仕事の経験を積み、自立した生活を送ることができるようにという願いを込めて前に「ワーク」を付け、「地域生活総合支援センターワークくみのき」としました。

ワークさつき

(2006年7月)

知的障害者通所授産施設の開設にあたり、泉大津市が設置・運営していた簡易授産施設「さつき園」の利用者を引き続き支援することを条件としており、「さつき園」の利用者や家族から親しみのある「さつき」の名前を残してほしいという要望をうけ、名称を「ワークさつき」としました。

じょぶライフだいせん

(2007年4月)

仕事と生活を総合的にサポートし、地域に親しまれる事業所となるよう、隣接する大仙公園の「だいせん」を名称に取り入れ、「じょぶライフだいせん」としました。

かなびのさと

(2008年4月)

利用者の重度・高齢化が進む中、利用者、家族はこの甘南備の地に深い信頼と愛着を持っておられ、今後もこの地で安心して、こころ豊かに老後が送れることを願っておられました。利用者10人を1生活単位としたユニットケアとし、全体を10ユニットで構成しており、利用者が生活するユニットを“家”と考え、その家々が集まったひとつの集落をイメージし、“郷(さと)”と組み合わせ「かなびのさと」としました。

公募期間：H18.4.28(金)～H18.5.29(月)
 公募対象者：利用者、家族、理事、評議員、職員
 公募方法：公募通知文及び「My Web」掲示板
 応募総数：51通

こんごう

(2016年4月)

かつらぎ

(2017年4月)

にじょう

(2017年4月)

山系が由来です。選考項目にもある利用者や家族からも親しみやすく、呼びやすい施設名称とし、「こんごう」「かつらぎ」「にじょう」としました。

公募期間：H26.7.25(金)～H26.8.18(月)
 公募対象者：利用者、家族、職員、役員、評議員
 公募方法：公募通知文及び「My Web」掲示板
 応募総数：76通

地域生活総合支援センターきらら

(2008年4月)

従来よりすぎのき寮で実施していた「自閉症児支援センターSun」と合わせて河内長野市で開所することが決まっていたため、Sunの「太陽」のイメージに関連して、夜間も含めて支援を行うセンターとして「星」のイメージの「きらきら」から、名称を「地域生活総合支援センターきらら」としました。

地域生活総合支援センターおんど

(2009年4月)

入所施設利用者の地域生活への移行を進める役割を担ってきた「障がい者地域移行支援センターおんど」を既に運営しており「おんど」という名称が松原市を含む南河内区域で既に知られる存在であったこと、また、その名のとおり地域での生活を希望する人の音頭とりをしてきたので名称を「地域生活総合支援センターおんど」としました。

／こんなこともしてまっせ／

自閉症支援

自閉症支援プロジェクトチームの過去、現在、そして未来

事業団での自閉症支援への取組みは、約20年前から「強度行動障がい」(*)を示す利用者に対して、行動改善につながる高い専門性を持った支援が求められるようになってきたことを受け、有志による自主勉強会から始まりました。その後も、事例検討会やコンサルテーションを中心に、将来的には自閉症支援を事業団の強みの一つとすべく活動の幅を広げて継続してきました。

2019(令和元)年度には、職員のための自閉症支援の実習の場と位置付けた、「かつらぎ」すすきユニットで6事業所27人の職員がPDCAサイクルの支援を学び、スキルアップを目指しました。また、自閉症支援において全国的にも著名な中山清司氏を招き、事業団内外に向けての強度行動障がい支援セミナーを開催し、好評を博しました。セミナーでは、すすきの実践報告について中山氏より「大阪府でもトップクラスの支援」と評価をいただき、事業団が培ってきた支援のノウハウにお墨付きを得ました。

今後も、自閉症支援のノウハウを事業団内で共有するとともに、自閉症支援プロジェクトの活動の裾野を広げ、自閉症の人が安心して暮らせるよう、支援スキルの向上に努めます。

(※)他害や自傷行為等が、通常考えられない頻度と形式で出現している状態にあること。



就労移行支援

「働きたい」「働きたい」を叶える

事業団就労ネットワークは、2011(平成23)年度からスタートしました。就労移行支援事業所を中心に、それぞれの地域で「働きたい」「働きたい」という思いを実現するため、働くまでの支援や働き続けるための支援に取り組んできました。結果、これまでに約430人(2020(令和2)年1月末日時点)の方が就職してきました。

現在は、就労移行支援事業所、障害者就業・生活支援センターと就労継続支援B型事業所のネットワークも活かしながら、事業団の就労支援機能の充実や障害者雇用の普及に向けて取り組んでいます。

日頃よりお世話になっている企業様のご協力のもと、2017(平成29)年9月29日に開催した合同模擬面接会は、企業様の講演や本格的な面接練習など、利用者だけでなく事業所にとっても貴重な経験となりました！

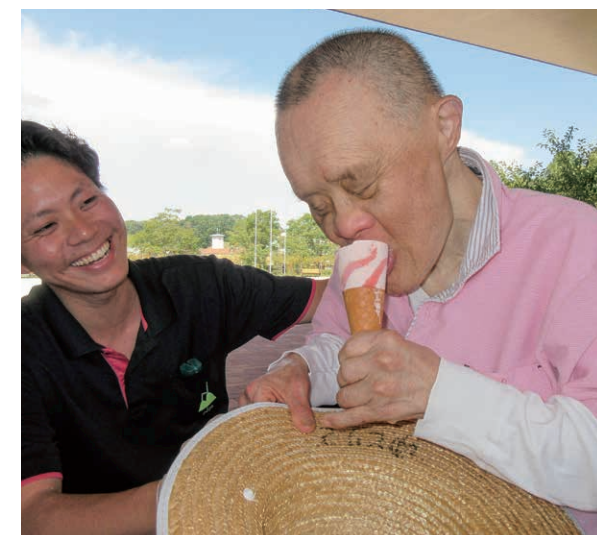


「発達障がいと職場環境」(動画)を制作し、支援プログラムの作成や就職者支援、研修での活用など、幅広い場面で活用しています。

50

50年の歴史を振り返る

発展の30年(1969-1999)	P.58
変革の20年(2000-2020)	P.60
これまでを振り返って	P.68
ビフォーアフター	P.69



発展の30年 1969-1999

金剛コロニー … 金剛コロニーに関すること

法人設立前

1965年 昭和40年	2月	「大阪府心身障害者対策要項」発表
	10月	大阪府児童福祉審議会の中に精神薄弱者（児）コロニー設置特別部会を設置する
1966年 昭和41年	9月	コロニー用地を富田林市甘南備に決定
1967年 昭和42年	5月	大阪府民生部婦人児童課内に大阪府精神薄弱者コロニー建設事務局開設
	8月	基本計画概要を児童福祉審議会に報告
1968年 昭和43年	3月	コロニー基本設計説明書発表
	8月	起工式を行う



開拓整地



大阪府精神薄弱者コロニー第一期建築工事の看板

法人設立10年

1969年 昭和44年	4月	「社会福祉法人大阪府精神薄弱者コロニー事業団」設立認可
	6月	機関紙「かなび」創刊
1970年 昭和45年	4月	「大阪府立金剛コロニー」が開所（運営受託開始）
	4月	「しいのき寮」「くすのき寮」「職能訓練所」が開かれる
	8月	第1回盆おどり大会
	9月	皇太子殿下御夫妻行啓
	10月	第1回運動会
1971年 昭和46年	1月	保護者会設立
	4月	「すぎのき寮」「けやき寮」「授産所」「診断部」が開かれる
	4月	総合管理棟、運動場を整備
1972年 昭和47年	4月	「ひのき寮」「かしのき寮」が開かれる
	4月	体育館、レクリエーションセンターを整備
	6月	プールを整備
	7月	第1回コロニー祭
1973年 昭和48年	3月	コロニー運営推進委員会設置
	3月	遊歩道、噴水を整備
	4月	「もみのき寮」「若松寮」が開かれる
	4月	レストラン、売店、理容店が開店
1974年 昭和49年	10月	ゲストハウス運営開始
	5月	コロニー祭に「いのりの塔」除幕式
1975年 昭和50年	5月	コロニーシンボルマーク、コロニー歌制定
	4月	「ねむのき保育所」設立
1977年 昭和52年	5月	高年令者処遇委員会発足
	1月	昼間処遇検討会発足
	2月	緊急一時保護事業開始
	3月	「紀要」第1号発行



大阪府立金剛コロニー開所式



皇太子殿下御夫妻行啓

法人設立20年

1980年 昭和55年	5月	金剛コロニー開所 10周年記念式典を実施（「金剛コロニー 10年誌」発行）
1981年 昭和56年	3月	コロニー紹介映画「明日をみつめて」完成
	4月	国際障害者年記念事業「コロニー見学会」実施開始
1982年 昭和57年	6月	職員互助会設立
	7月	第1回療育キャンプ（在宅障害者）開催
	9月	移動動物園開始
1983年 昭和58年	10月	国際障害者年記念事業「石川クリーン作戦」実施開始
	8月	富田林サマースクール（在宅障害児キャンプ）開催
1984年 昭和59年	5月	「ぼぶら（千代田店）」開店
	7月	青空市場開始
	9月	機関紙「かなび」福祉広報紙コンクール入賞
	12月	第1回コロニーボランティア講座開催
1985年 昭和60年	4月	「ぼぶら（富田林西口店）」開店
	12月	自立訓練棟使用開始
1986年 昭和61年	7月	ケア付住宅 大平ホーム入居開始
1987年 昭和62年	6月	保護者会より「保護者会 15周年記念ホール」を受贈
	12月	金剛バス構内乗入れ開始
1989年 平成元年	12月	地元向情報紙「向陽橋」創刊



ぼぶら



第17回コロニーまつり

法人設立30年

1990年 平成2年	5月	金剛コロニー開所 20周年記念式典を実施（「金剛コロニー 20年誌」発行）
	5月	知的障害者地域生活援助事業（グループホーム）を開始
1992年 平成4年	4月	知的障害者自活訓練事業開始
1993年 平成5年	4月	「大阪府授産事業振興センター」運営受託開始
	4月	「大阪府立明光ワークス」運営受託開始
1994年 平成6年	6月	グループホーム室設置 金剛コロニー
1995年 平成7年	4月	在宅障害者自活訓練事業開始 金剛コロニー
	4月	「大阪 I NA 職業支援センター」開所
	10月	地域療育拠点施設事業開始 金剛コロニー
1996年 平成8年	4月	法人の名称を「社会福祉法人大阪府障害者福祉事業団」に変更
	4月	「大阪府立箕面通動寮」開所（運営受託開始）
	4月	「大阪府立稲スポーツセンター」開所（運営受託開始）
	4月	「大阪府立稲スポーツセンター」開所（運営受託開始）
1998年 平成10年	3月	「大阪府授産事業振興センター」の運営を大阪府社会福祉協議会へ移管



グループホーム室



大阪府立稲スポーツセンター・大阪府立箕面通動寮オープン

大阪府障害者福祉事業団検定

Q37

地域生活総合支援センターいまが発行している機関紙の名称は？

大阪府障害者福祉事業団検定

Q38

稲スポーツセンターで実施している、全国レベルの障がい者スポーツ競技種目は次のうちどれ？
①車いすバスケット ②ポッチャ ③ビームライフ

変革の20年 2000-2004

金剛コロニー … 金剛コロニーに関すること
大阪府 … 大阪府の政策等

	大阪府障害者福祉事業団	日本の福祉	社会の主な出来事
2000 平成 12年	1月「金剛コロニーの改革について」(組織編)報告	—	—
	2月—	—	国会で初の党首討論を開催
	3月—	—	ロシア大統領選、プーチンが当選
	4月大阪府知的障害者生活支援事業受託開始	「介護保険法」施行(厚生省) 「民法の一部を改正する法律」等中成年後見制度の改正部分の施行(法務省)	自公、自由党との連立を解消 小淵首相、脳梗塞で緊急入院 自公保連立内閣発足 初の韓国・北朝鮮元首直接会談
	5月金剛コロニー開所30周年記念式典を実施(「金剛コロニー30年誌」発刊)	「社会福祉事業法」を「社会福祉法」へ題名改正 「高齢者・身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律」の成立(11月15日施行)(建設省)	ストーカー規制法公布
	6月—	「社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律」の公布(厚生省)	雪印乳業大阪工場生産の乳製品で集団食中毒発生(厚生省)
	7月地域生活移行促進モデル事業(プランチホーム)開始 金剛コロニー	—	第26回主要国首脳会議、沖縄県名護市で開催
	9月—	—	三宅島の火山活動活発化、全島民に避難指示発令
	10月—	—	長野県知事選、作家の田中康夫が無党派で当選 オルブライト米国务長官、米現職閣僚初の訪朝
	11月—	「児童虐待防止法」施行	米大統領選、ブッシュの勝利確定 石器発掘捏造が発覚
	12月—	障害者施策推進本部設置(12月26日閣議決定)	改正少年法公布、厳罰化
2001 平成 13年	1月—	厚生労働省発足	中央省庁再編
	2月—	—	宇和島水産高校実習船「えひめ丸」が米原潜と衝突、沈没
	3月—	「社会保障改革大綱」策定	米、「京都議定書」離脱へ
	4月障害者雇用支援センターステップアップ事業受託	「高齢者の居住の安全確保に関する法律」を公布(国土交通省)	情報公開法施行
	5月地域福祉課グループホーム室を「地域生活総合支援センター「ゆう」」に変更 南河内南障害者就業・生活支援センター受託開始	—	ハンセン病訴訟で国に賠償金支払いを命じる
	8月—	「公共交通機関旅客施設の移動円滑化整備ガイドライン」を策定(国土交通省)	小泉首相が靖国神社参拝
	9月長期ビジョン検討会設置	大阪府行財政計画(案) 大阪府	BSE(狂牛病)感染牛、国内初発見 米で同時多発テロ 平均株価1万円割れ
	10月—	—	米、アフガニスタン空爆開始 テロ関連3法成立
2002 平成 14年	1月—	—	海上自衛隊、インド洋へ向け出航 WTO、中国の加盟承認
	2月—	—	雅子皇太子妃、愛子内親王を出産
	3月—	—	ユーロ流通開始 ブッシュ米大統領、北朝鮮・イラン・イラクを「悪の枢軸」と非難
	4月コロニー改革実施 金剛コロニー 生活支援部・自立支援部・就労支援部・地域福祉部の4部制を開始 金剛コロニー 昼間支援・夜間支援を一元化 金剛コロニー 職員定数の見直し 金剛コロニー 長期戦略検討会議設置	—	「ゆとり教育」スタート
	5月—	「身体障害者補助犬法」の成立(10月1日1次分施行、平成15年10月1日2次分施行)(厚生労働省)	サッカー日韓W杯開幕

	大阪府障害者福祉事業団	日本の福祉	社会の主な出来事
2002 平成 14年	8月「事業展開戦略」作成 皇太子徳仁親王「あいあいプラザ」を行啓	「ホームレス自立支援法」施行	住民基本台帳ネットワーク(住基ネット)稼働
	9月—	—	小泉首相、北朝鮮を訪問「日朝平壤宣言」に署名 「米国家安全保障戦略」で「ならず者国家」への先制攻撃戦略を発表
	10月—	「旅客施設における音による移動支援方策ガイドライン」を策定(国土交通省)	ノーベル賞、ダブル受賞(小柴昌俊に物理栄章、田中耕一に化学賞) 北朝鮮拉致被害者5人帰国
	12月—	「道路の移動円滑化整備ガイドライン」を策定(国土交通省) 「障害者基本計画」を策定(閣議決定) 障害者施策推進本部「重点施策実施5か年計画」策定 「新障害者プラン」策定	韓国大統領に盧武鉉当選
2003 平成 15年	2月—	—	イラク戦争反対のデモ
	3月—	第3次大阪府障害者計画 大阪府	米・英軍、イラク攻撃開始
	4月知的障害者デイサービス事業(もっと)を開始 戦略推進チーム及び経営企画室設置 法人事務局から施設への権限移譲、事務移管 社会福祉法人会計基準導入 職員定数再見直し 金剛コロニー 長期戦略会議設置 I T環境の整備(LAN構築)	身体障害者及び知的障害者の福祉サービスについて、「措置制度」から「支援費制度」に移行(厚生労働省)	日本郵政公社が発足 米・英軍、イラク全土を掌握
	5月—	—	「個人情報保護関連5法」成立
	6月—	「府立金剛コロニーのあり方検討会」を設置 大阪府	「有事法制関連3法」成立
	7月—	「心身喪失等の状態で重大な他害行為を行ったものの医療及び観察等に関する法律」の成立(16年10月15日一部施行)(厚生労働省) 「次世代育成支援対策推進法」施行 「少子化社会対策基本法」施行	イラク復興支援特別措置法成立
	11月—	—	イラクで日本大使館員2人殺害
	12月「知的障害者通所授産施設ワークくみのき(現:地域生活総合支援センターワークくみのき)」開所	府立金剛コロニーの今後のあり方について(案)～地域生活支援の拠点整備と障害者ニーズに合ったサービスの提供～ 大阪府	米国産牛肉の輸入を停止
2004 平成 16年	1月—	「小・中学校におけるLD、ADHD、高機能自閉症の児童生徒への教育支援体制の整備のためのガイドライン(試案)」を策定(文部科学省)	国内で鳥インフルエンザ確認 イラク派遣命令
	3月4部制を廃止 金剛コロニー	「学校施設バリアフリー化推進指針」策定(文部科学省)	マドリードで列車爆破テロ 陳水扁、台湾総統再選
	4月評議員会を設置 長期戦略会議設置	—	3邦人、イラクで人質に
	5月—	—	裁判員制度法成立
	6月—	「障害者基本法の一部を改正する法律」の成立(16年6月4日一次分施行、17年4月18日二次分施行、19年4月1日三次分施行)	年金改革関連法成立
	7月新給与制度導入(府に準じた給与制度から法人独自の給与制度へ移行)	—	—
	8月「金剛コロニー再編基本計画」策定	—	米軍ヘリが沖縄国際大学に墜落
	10月—	日本障害フォーラム(JDF)設立	日本プロ野球選手会、史上初のスト 新潟県中越地震
	11月人事評価制度モデル実施開始 「自立促進センターの今後についての基本構想」策定	大阪府行財政計画(案) 大阪府	ブッシュ米大統領再選
	12月—	「発達障害者支援法」の成立(17年4月1日施行) 「特定障害者に対する特別障害給付金の支給に関する法律」の成立(17年4月1日施行)(厚生労働省・社会保険庁)	スマトラ沖M9地震、インド洋で大津波

2005-2009

金剛コロニー … 金剛コロニーに関すること
大阪府 … 大阪府の政策等

	大阪府障害者福祉事業団	日本の福祉	社会の主な出来事
2005	1月	—	「障害者の社会参加に関する特別世論調査」実施(内閣府)
	2月	—	ライブドア、ニッポン放送株35%取得
	3月	—	愛・地球博、愛知県で開幕
	4月	児童デイサービス事業(現:こども発達支援センターSun)を開始 退職手当制度改正(府に準じた給与制度から法人独自の給与制度へ移行) 内閣府に「中央障害者施策推進協議会」設置	個人情報保護法施行 北京で反日デモ J R 福知山線脱線事故
	5月	—	プロ野球初のセ・パ交流戦開始 仏国民投票、欧州憲法批准を否決
	7月	大阪府障害者地域移行支援センター事業(府内5か所)を開始	「ユニバーサルデザイン政策大綱」公表(国土交通省)
	8月	—	郵政民営化関連法案、参議院で否決(首相衆議院を解散) 米南部でハリケーン「カトリーナ」の被害拡大
	9月	—	第44回総選挙、自民圧勝、与党で3分の2の議席
平成 17年	10月	—	「障害者自立支援法」の成立(18年4月1日施行)(厚生労働省)
	11月	—	大阪府立稲スポーツセンター運営法人公募 大阪府
	1月	—	ライブドアの堀江貴文社長逮捕
	2月	—	人口、初の自然減
	4月	大阪府立金剛コロニー、明光ワークス、箕面通勤寮、稲スポーツセンター管理運営業務受託(～2011年3月)	「指定管理者制度」導入 大阪府 「社会福祉施設職員等退職手当共済法」改正(介護分野における公費助成を廃止)
	5月	—	胡錦濤国家主席、初の米国公式訪問 耐震強度偽装事件で元建築士ら逮捕
	6月	—	在日米軍再編で合意
	7月	「知的障害者通所授産施設ワークさつき(現:ワークさつき)」開所	イスラエル軍、パレスチナのガザ地区に侵攻
2006	8月	—	5年4か月ぶりにゼロ金利解除 昭和天皇の靖国神社へのA級戦犯合祀反対の意向が判明
	9月	—	小泉首相、靖国神社参拝
	10月	障害者自立支援法施行に伴う事業編成の変更	安部晋三、初の戦後生まれの首相 秋篠宮紀子妃、悠仁親王を出産
	11月	—	北朝鮮、核実験実施を発表
	12月	—	フセイン元大統領に死刑判決
	1月	—	改正教育基本法、防衛省昇格法成立
	3月	「大阪府立金剛コロニー附属診療所」閉鎖	—
	4月	「重症心身障害児施設すくよか(現:すくよか)」開所 「じょぶライフだいせん」開所 金剛コロニー定員変更 成人750人→620人 金剛コロニー	「学校教育法」改正(障がい児に教育を行う学校種を「特別支援学校」に統一)
平成 19年	5月	—	仏大統領に保守派のサルコジ当選 国民投票法成立 光熱費・事務所費問題で追及されていた松岡利勝農水相が自殺
	6月	—	米、サブプライムローン問題
	7月	—	久間章生防衛相、原爆投下を「しょうがない」と発言し辞任 新潟中越沖地震 第21回参院選で与党惨敗

	大阪府障害者福祉事業団	日本の福祉	社会の主な出来事
2007	8月	—	赤城徳彦農水相、政治団体の会計処理問題などのため辞任
	9月	—	遠藤武彦農水相、農業共済組合の補助金不正問題で辞任 安部首相、辞任表明
	10月	—	郵政民営化スタート
	11月	—	守屋武昌前防衛次官、収賄容疑で逮捕
	12月	—	障害者施策推進本部「重点施策実施5か年計画」の決定
平成 19年	1月	—	中国製の冷凍餃子から有毒成分メタミドホス検出
	3月	「大阪府立金剛コロニーけやき寮」閉寮	円高で12年ぶりに1ドル100円を突破 社保庁、年金記録の特定困難2025万件と発表
	4月	「特別養護老人ホームかなびのさと(現:かなびのさと)」開所 「地域生活総合支援センターきらら」開所 「明光ワークス」民営化 金剛コロニー定員変更 成人620人→540人 金剛コロニー	「後期高齢者医療制度」開始
	5月	—	中国四川省で大地震
	6月	—	財政再建プログラム(案) 大阪府 「障害のある児童及び生徒のための教科用特定図書等の普及の促進等に関する法律」が成立(平成20年9月17日施行)(文部科学省)
	7月	—	秋葉原で無差別殺傷事件
	8月	—	原油価格高騰
	9月	事業団理念及び基本方針の構築	「発達障害教育情報センター」開設
2008	10月	「事業団運営改革に向けた報告書」作成	福田首相、辞意を表明 「事故米」食用転売 リーマン・ブラザーズが経営破綻(リーマン・ショック) ニューヨーク証券取引所、ダウ平均で777ドル安と史上最大の下げ幅
	11月	—	田母神俊雄航空幕僚長を「政府見解に異なる」意見を主張したとして更迭
	12月	—	米大統領選、バラク＝オバマが当選
	1月	—	「年越し派遣村」開設
	3月	「大阪府立金剛コロニーひのき寮」閉寮	—
2009	4月	「地域生活総合支援センターおんど」開所 金剛コロニー定員変更 成人540人→470人 金剛コロニー	「障害者の雇用の促進等に関する法律施行令の一部を改正する政令」の公布(除外率一律10%引下げ)(厚生労働省) 「道路交通法の一部を改正する法律」(平成21年法律第21号)の公布(高齢運転者等専用駐車区画制度の導入)(警察庁)
	5月	—	裁判員制度スタート
	6月	—	WHO、新型インフルエンザの警戒レベルを最高の「フェーズ6」へ引き上げ
	8月	—	第45回裁判員裁判による初裁判 衆議院議員総選挙で民主党大勝、歴史的政権交代に
	9月	—	消費者庁発足
	10月	事業団改革中期計画(案)(平成21年度～24年度)策定	オバマ米大統領にノーベル平和賞
	11月	—	「事業仕分け」スタート
	12月	役員報酬の見直し(報酬月額を減額、賞与を減額) 賞与の見直し(賞与の基礎額から役職手当を削除、賞与支給率を削減(4.4月→4.1月へ))	障がい者制度改革推進本部設置(閣議決定)

2010-2014

金剛コロニー … 金剛コロニーに関すること
大阪府 … 大阪府の政策等

		大阪府障害者福祉事業団	日本の福祉	社会の主な出来事
2010 平成 22年	1月	—	子ども・子育てビジョンの策定	—
	3月	「大阪府立金剛コロニー若松寮」閉寮	—	—
	4月	「ワークくみのき（現：地域生活総合支援センターワークくみのき）」「ワークさつき」が障害者自立支援法に基づく新事業体系へ移行 早期退職優遇措置の改正（平成22年のみ） 法人事務局体制の縮小 給与制度の見直し（持家にかかる住居手当を廃止） 旅費の振込支給実施 金剛コロニー定員変更 成人470人→406人 金剛コロニー	「道路交通法の一部を改正する法律（平成21年法律第21号）」の施行（高齢運転者等専用駐車区間制度の導入）（警察庁）	宮崎県で牛の口蹄疫感染
	5月	—	—	鳩山内閣、普天間飛行場の辺野古移設の方針を閣議決定
	6月	—	「障害者制度改革の推進のための基本的方向について」閣議決定	小惑星探査機「はやぶさ」、小惑星イトカワより帰還
	7月	—	—	第22回参議院選挙で民主党大敗、ねじれ国会に
	9月	—	—	尖閣諸島沖の日本の領海内で中国漁船が海上保安庁巡視船に衝突 金正日総書記の3男金正恩が公式に後継者に
	10月	—	大阪府財政構造改革プラン(案) 大阪府	—
	12月	—	「障がい者制度改革推進本部等における検討を踏まえて障害保健福祉施策を見直すまでの間において障害者等の地域生活を支援するための関係法律の整備に関する法律」公布（障害者自立支援法等の改正）（厚生労働省） 「道路交通法施行規則の一部を改正する内閣府令」の公布（盲導犬のハーネスの形状の柔軟化）（警察庁）	—
2011 平成 23年	1月	—	—	チュニジアでジャスミン革命、アラブ世界に波及 中国、2010年の名目GDP世界第2位へ
	3月	—	「障がい者制度改革推進本部」が障害者基本法改正案を決定	東日本大震災 福島第一原発1号機で炉心溶融事故 1都8県で計画停電開始
	4月	大阪府指定出資法人解除 「地域生活総合支援センターあい」開所 大阪府立金剛コロニー管理運営業務受託（～2017年3月） 大阪府立箕面通勤寮、稲スポーツセンター管理運営業務受託（～2012年3月） 金剛コロニー成人施設が障害者自立支援法に基づく新事業体系へ移行 役員報酬の見直し（賞与を減額） 退職手当制度の見直し（事業団支給額を固定し、福祉医療機構退職金制度に一本化） 給与制度の見直し（基本給の見直し（暫定額） 役職手当・職務手当の改正 初任給の改善 昇格時加算の見直し 前歴加算の改善 休日勤務手当を廃止（指定日勤務手当を創設） 賞与の基礎額から職務手当を削除 賞与支給率を削減（4.1月→3.95月） 継続雇用職員の賞与支給率を削減（3月→1.5月）） 金剛コロニー定員変更 成人406人→364人 金剛コロニー	—	福島第一原発20km圏内を「警戒区域」として立ち入り禁止に
	7月	—	—	「なでしこジャパン」W杯で優勝
	8月	—	改正障害者基本法が公布、一部を除き施行	
	9月	—	「道路交通法施行規則の一部を改正する内閣府令」の公布（聴覚障害者が運転できる車両の種類の拡大）（警察庁）	菅内閣総辞職、野田佳彦内閣発足 ウォール街で反格差デモ

		大阪府障害者福祉事業団	日本の福祉	社会の主な出来事
2012 平成 24年	3月	「大阪府立箕面通勤寮」閉寮	—	—
	4月	整備グループホーム「ペンギン」（和泉市）開所 大阪府立稲スポーツセンター管理運営業務受託（～2012年9月） 給与制度の見直し（賞与支給率を削減（3.95月→3.8月））	—	—
	5月	—	—	東京スカイツリー開業 国内の原発はすべて運転中止に
	6月	—	一部修正された「地域社会における共生の実現に向けて新たな障害保健福祉施策を講ずるための関係法律の整備に関する法律案」成立 障害者の法定雇用率を引き上げる政令が公布される（平成25年4月1日施行）	地下鉄サリン事件捜査終結
	7月	—	—	自然エネルギー買い取り制度スタート 米国の輸送機オスプレイ、普天間飛行場に配備
	8月	—	—	—
	9月	—	—	尖閣諸島の魚釣島ほか3島を国有化
	10月	大阪府立稲スポーツセンター代替教室運営業務受託 大阪府社会福祉事業団と緊急時相互連携協定締結	「障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律（障害者虐待防止法）」施行	—
	11月	—	—	習近平、中国共産党総書記に就任
	12月	—	—	第46回衆議院総選挙で、民主党は歴史的惨敗 第2次安部晋三内閣発足
2013 平成 25年	1月	給与制度の見直し（医療専門職の調整額の創設） 「災害発生時における福祉避難所の設置運営に関する協定」を河内長野市と締結	—	白銀、物価目標2％を決定、無期限の金融緩和策を策定
	2月	—	—	北朝鮮、3回目の核実験
	4月	茨木市立障害福祉センターハートフル管理運営業務受託（～2018年3月） 給与制度の見直し（賞与支給率を削減（3.8月→3.65月）） 金剛コロニー定員変更 成人364人→316人 金剛コロニー	「障害者自立支援法」を「障害者総合支援法」へ題名改正 「国等による障害者就労施設等からの物品等の調達の推進等に関する法律（障害者優先調達法）」施行 障害者の法定雇用率が引き上げになる。（厚生労働省）（1.8%→2.0%）	—
	7月	—	—	第23回参議院選挙で自民党大勝により「ねじれ」解消
	8月	—	—	国の借金残高が初めて1,000兆円を突破 シリア内戦で毒ガス使用の疑惑
	9月	—	障害者基本計画（第3次）閣議決定	2020年オリンピック、東京に決定
2014 平成 26年	12月	—	—	特定秘密保護法成立
	1月	大阪府立稲スポーツセンター管理運営業務受託（～2014年3月）	「障害者権利条約」国会承認	「STAP細胞」論文に意図的不正
	3月	「大阪府立金剛コロニーかしのき寮」閉寮	「大阪府立金剛コロニー基本構想」策定 大阪府	—
	4月	大阪府立稲スポーツセンター管理運営業務受託（～2018年3月） 金剛コロニー定員変更 成人316人→280人 金剛コロニー	—	消費税、8％に引き上げ
	6月	「災害発生時における福祉避難所の設置運営に関する協定」を泉大津市と締結	—	IS（自称イスラム国）、建国宣言
	7月	全国社会福祉事業団近畿ブロック加盟事業団による「災害発生時における相互応援協定」を締結	—	集団的自衛権の行使を条件付きで容認する政府見解を閣議決定
	9月	—	—	香港で雨傘革命
	11月	—	—	沖縄県知事選、辺野古移設反対の翁長雄志が初当選 消費税10％引き上げ先送りを発表

2015-2020

金剛コロニー … 金剛コロニーに関すること
大阪府 … 大阪府の政策等

	大阪府障害者福祉事業団	日本の福祉	社会の主な出来事
2015 平成 27年	1月	—	「難病の患者に対する医療等に関する法律」施行（厚生労働省）
	2月	—	「障害を理由とする差別の解消の推進に関する基本方針」閣議決定（内閣府） 行財政改革推進プラン（案） 大阪府
	3月	大阪府立金剛コロニー内レストラン「コロニーレストラン」閉店	—
	4月	常務理事の設置 指定職員の設置 金剛コロニー定員変更 成人280人→260人 金剛コロニー	「生活困窮者自立支援法」施行 「子ども・子育て支援法」施行
	6月	—	選挙権年齢を18歳以上に引き下げる改正公職選挙法成立
	7月	—	芥川賞に又吉直樹の「火花」
	8月	—	川内原発、新規制基準下で初の再稼働
	9月	—	改正労働者派遣法成立 安全保障関連法成立、集団的自衛権の行使を容認
	10月	—	マイナンバー法施行 翁長雄志沖縄県知事、辺野古埋め立て承認を取り消し、国と県の「訴訟合戦」に
	11月	—	パリで同時多発テロ
	12月	第1回障がい福祉セミナー開催	COP21でパリ協定締結
2016 平成 28年	1月	—	安倍首相「1億総活躍社会」をめざす政策を示す日銀、マイナス金利政策導入
	2月	—	「保育園落ちた日本死ね!!!」と題したブログが注目を集める 総人口が戦後初の減少
	3月	「大阪府立金剛コロニーもみのき寮」閉寮 大阪府立金剛コロニー内売店「ショップコロニー」閉店	—
	4月	「こんごう」開所 「地域生活総合支援センターいま」開所 「地域生活総合支援センターワークくみのき」新築移転 大阪府立金剛コロニー内理容店（理容コロニー）法人事務局別棟へ移転 金剛コロニー定員変更 成人260人→120人 金剛コロニー	「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」施行 「障害者の雇用の促進等に関する法律の一部を改正する法律」の一部施行（障害者に対する差別の禁止、合理的配慮の提供義務） 社会福祉法人会計基準が省令となる 「社会福祉施設職員等退職手当共済法」改正（障がい分野における公費助成を廃止）
	5月	—	「成年後見制度の利用の促進に関する法律」施行
	6月	—	「ニッポン一億総活躍プラン」 消費税率10%への引き上げ再延期 原子番号113の新元素を「ニホニウム（Nh）」と命名英、国民投票でEU離脱決定
	7月	—	「ポケモンGO」爆発的人气 第24回参院選、与党が勝利、改憲派が憲法改正発議に必要な3分の2の議席に 相模原市の知的障害者施設で、元従業員が19人殺害、26人負傷
	8月	—	天皇、生前退位の意向表明
	11月	—	米大統領選、ドナルド・トランプが当選
	12月	第2回障がい福祉セミナー開催 「災害発生時における福祉避難所の指定及び設置・運営に関する協定」を大阪狭山市と締結 「災害発生時における福祉避難所の開設及び運営管理に関する協定書」を守口市と締結	—
2017 平成 29年	1月	—	米大統領にトランプ就任、「アメリカファースト」を強調
	2月	「災害発生時における福祉避難所の指定及び設置運営に関する協定書」を松原市と締結 評議員選任・解任委員会の設置	—
	3月	「大阪府立金剛コロニーくすのき寮」閉寮 「もっと」廃止（「こんごう」「かつらぎ」「にじょう」の 日中活動へ再編）	成年後見制度利用促進基本計画閣議決定

	大阪府障害者福祉事業団	日本の福祉	社会の主な出来事	
2017 平成 29年	4月 法人の実質的民営化達成（自主運営開始） ガバナンス強化のため経営組織を見直し 「かつらぎ」開所 「にじょう」開所 「地域生活総合支援センターきらら」新築 法人事務局新築移転 整備グループホーム「スイートピー」（富田林市）開所 大阪府立こんごう福祉センター管理運営業務受託（～2022年3月） 金剛コロニー定員変更 成人120人→20人　児童100人→80人 金剛コロニー	「大阪府立金剛コロニー」から「大阪府立 こんごう福祉センター」へ改称 大阪府	—	
	5月	—	加計学園の獣医学部新設に関し、「総理のご意 向」と記された文書の内容を報道	
	6月	—	「テロ等準備罪」を新設する改正組織犯罪処罰法成立	
	7月	—	小池百合子都知事率いる「都民ファーストの会」躍進 国連で核兵器禁止条約採択、日本は不参加	
	9月	「公認心理士法」施行	—	
	10月	—	第48回衆議院総選挙、自公で3分の2確保、希望 の党は失速	
	12月	第3回障がい福祉セミナー開催	天皇退位は2019年4月30日に決定	
2018 平成 30年	2月	自主製品ブランド「TOMONI」を立ち上げ	—	
	3月	「地域生活総合支援センター「ゆう」」廃止	障害者基本計画（第4次）閣議決定	森友学園の国有地売却をめぐる財務省の決裁文 書に改竄の疑い
	4月 「大阪 I NA職業支援センター」グリーンハーベスト科 開所 大阪府立稲スポーツセンター管理運営業務受託（～ 2020年3月） 茨木市立障害福祉センターハートフル管理運営業務 受託（～2023年3月） 新給与制度導入後初のベースアップ実施 給与制度の見直し（指定日勤務手当を新設、住居手 当の改正）	「社会福祉法」の一部改正（「我が事・丸ご と」地域共生社会の実現へ） 法定雇用率の引上げ（2.0%→2.2%）	—	
	6月	第46回こんごう福祉センターまつり（閉幕）	「障害者による文化芸術活動の推進に関 する法律」の施行	18歳を成人とする改正民法成立 働き方改革関連法案が成立
	9月	—	—	大坂なおみ、テニス全米オープン優勝 関西国際空港は高潮で浸水し停電、旅行者ら約 8,000人孤立 胆振地方で地震、道内のほぼ全域で停電 沖縄県知事選で辺野古移設反対の玉城デニーが 初当選
	11月	—	—	2025年の万博の大阪開催が決定
	12月	限定職員の設置	「ユニバーサル社会の実現に向けた諸施 策の総合的かつ体系的な推進に関する 法律」の施行（内閣府）	改正出入国管理法成立 予算案を閣議決定、初めて100兆円を超える 環太平洋経済連携協定（TPP）発効
2019 平成 31年 令和 元年	1月	—	厚労省、「毎月勤労統計」で2004年から不適切な 方法がとられていたと発表 英議会、「EU離脱協定案」大差で否決	
	2月	—	—	米朝首脳会談
	3月	—	「障害者による文化芸術活動の推進に関 する基本的な計画」を公表（文部科学省）	—
	4月 法人設立50年目を迎える ガバナンス強化のため指導監査室を設置 整備グループホーム「しろくま」（和泉市）開所 （金剛コロニー再編整備完了）	—	—	
	5月	—	—	徳仁皇太子即位、令和と改元
	6月	平成30年度決算で全事業所が黒字を達成したため、 民営化後初めて経営結果を職員へ一時金として還元	—	—
	9月	—	—	—
	10月	大阪府災害派遣福祉チーム（DWA T）に参加	—	—
	2020 令和 2年	1月	—	国内で新型コロナウイルス確認
3月	大阪府立稲スポーツセンター管理運営業務終了	—	—	

日本の福祉…平成30年版「厚生労働白書」及び「令和元年版（令和元年6月）障害者白書」より抜粋 社会の主な出来事…増補完全版 昭和・平成 現代史年表（小学館）より抜粋

大阪府障害者福祉事業団検定

Q45

ワークさつきの敷地には元々何が建っていた？

大阪府障害者福祉事業団検定

Q46

じょぶライフだいせんの建物は、上空から見たときに何かをイメージしたデザインになっている。それは何？

これまでを振り返って

20年にわたる 再編整備を終えて

こんごう福祉センター長
兼 かつらぎ施設長

榎本 浩之



今、私の手元には『金剛コロニー30年誌 ―ふれあいの声ひびかせて―』の冊子があります。最終ページにある編集担当者の欄には、諸先輩方の名前と並んで末席に自身の名が記されています。

30年誌を作成していた当時の事業団は、法人の設立と同じ時期に開設された大阪府立金剛コロニーの運営が中心でした。法人事務局職員は、全員がコロニー総務部職員を兼務しており、いつも法人業務か施設業務かを確認しながら日々の業務を処理していました。いずれの決裁ラインに乗せるのかを意識するからです。

世界中が2000(平成12)年のミレニアムに沸いていました。特にこの年の各国の熱狂的な年越しセレモニーは、今でも風化されずに記憶しています。

さて、その当時の福祉情勢は、ノーマライゼーション、リハビリテーション、QOL、バリアフリー、人権擁護等、福祉施設のあり方が問われてきた時代でした。金剛コロニーも入所施設としての機能から、在宅知的障がい者支援拠点への機能転換が求められました。地域移行が主流となり、多くの入所者が地域生活を始めていかれました。一方、高齢者への支援体制の構築、及び若年者や特別に配慮を必要とする利用者への支援の強化等、一層の専門性向上が求められるようになりました。

その後、20年の間には、大阪府内各地に利用者の地域生活

移行の受け皿となる拠点施設や利用者の状態に応じた入所施設・グループホーム等のハード整備を行いました。また、職員給与や就業規則等の制度改正、予算編成方針の変更や事業団理念の制定等、ソフト面の整備も並行し、あらゆる角度からの経営改革を断行しました。計画段階から数え、これらの法人民営化に向けた約20年にわたる再編整備は、昨年度和泉市にグループホームを整備したことで完了しました。しかし、今なお残る最大の課題は職員の意識改革だと思っています。

現在は、障害者支援施設の施設長として、地域での生活が難しい重度障がい者や強度行動障がい者の受入れや生活支援を行っています。また、名称は府立金剛コロニーからこんごう福祉センターへと変わりました。センター長としては、利用者のライフステージに応じた支援や高齢者・重度障がい者が生活しやすい環境整備等に取り組んでいます。20年前に先駆けで地域移行された利用者が高齢となりADLの低下や生活スタイルの変化とともに、次のステージである本人にあった生活環境への移行が必要となってきています。ライフステージに応じたスムーズな移行先を調整しながら、利用者が困ることなく、生活環境が変わっても快適に生活ができ、「笑顔」でいられるような支援を続けていきたいと思っています。

大阪府障害者福祉事業団と事業団職員のこれからの20年に大いに期待しています。



桜の木の下で(当時の総務部職員)



コロニーまつり片づけ

ビフォーアフター

長い年月の経過により、福祉情勢はもちろん、他にもさまざまなものが変化してきました。どのような変化が起こったのか、昔と今の写真を見比べてみましょう。

風景の変化

Before



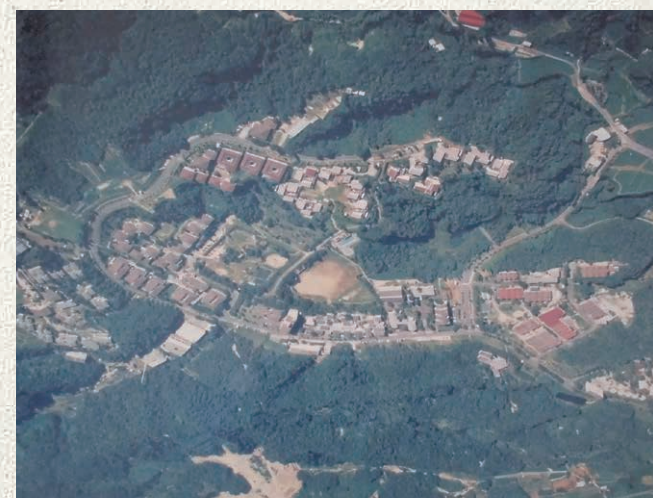
職員宿舍付近の丘の上にて(1971年頃)

▶▶▶ After



「にじょう」上空よりドローンにて

Before



航空写真にて(1987年)

▶▶▶ After



「大阪INA職業支援センター(グリーンハーベスト科)」
上空よりドローンにて

建物の変化

Before



深山橋 (1968年頃)

After



深山橋

Before



総合管理棟

After



法人事務局

Before



レクリエーションセンター前 (通称:れんが広場)

After



多目的ホール前

Before



大阪府立明光ワークス (2000年頃)

After



明光ワークス

Before



ワークくみのき (2013年頃)

After



地域生活総合支援センターワークくみのき

人の変化

〈法人事務局〉

理事長
飯田 哲司理事
指導監査室長
岩城 由幸事務局長
宮脇 章二郎理事
事業課長
山田 忠男事業課参事
門三 希久典総務課長
辻野 滋之人事課長
高橋 宏直運営協議会委員
西村 英八郎評議員
白土 隆司評議員選任・解任委員会委員
大平 浩

／こんなこともしてまっせ／



音楽 音楽とともに生きる

事業団50年の歴史の中には常に音楽がありました。音楽には計り知れない力があると感じています。言語を介さず直接情動に働きかけることができる特性があり、重度の知的障がいがある方もとても楽しめるものです。普段、会話をほとんどされない方でも、音楽が流れ出すと表情が柔らかくなり、歌を口ずさんだり身体全体を使ってリズムをとったりする姿が見られます。幼児から高齢者まで、障がいの有無に関係なく誰もが同じように楽しめるものが音楽です。

これまでも音楽を通じて、たくさんの音楽の専門職員や音楽ボランティア、他関係者と利用者が関わってきました。今後も変わらず音楽は生活の一部であり、私たち職員も利用者とのコミュニケーションをとる一つのツールとして取り組み続けていきます。

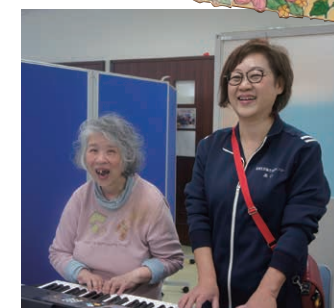
利用者の皆さんの素敵な笑顔があふれますように。

5

ボランティアに 支えられて

ボランティアの声 P.76

ボランティアの歴史 P.78



TOMONI



TOMONI

ともに、笑顔あふれるように

TOMONIは、事業団の各事業所から「特別な美味しさ」「すてきな美しさ」を集めたブランドです。各事業所ではクッキー、ラスク、雑貨、手すき和紙など、繊細で魅力的な製品をたくさん作っています。これらの製品を「もっとたくさんの人に知ってもらいたい！」「たくさんの人に届けたい！」という事業団に関わるすべての人たちの熱意や想いをカタチにしようとTOMONIブランドを立ち上げました。TOMONIには、【ともに生きる心を育み ともに歩む社会の実現】という私たちの理念と、TOMONIの商品を通じて「お買い上げいただく皆さま」「私たち」が“ともに”素敵な気持ちになれるようにとの想いが詰まっています。TOMONIが「ONE TEAM」でブランディングしていくことで、社会的課題でもある工賃向上につながっていると思っています。今後もTOMONIの挑戦は続き、TOMONIに関わるすべての人を「幸せ」「笑顔」にしていきたいです。応援よろしくお祈りいたします♪

TOMONI

TSUNAGU

TODOKERU

「おいしい」「すてきな」を集めたブランドです。SFJの各事業所では「クッキー」「パン」「織り雑貨」「手すき和紙」など、いろいろな製品をたくさん作っています。一つ一つの製品には暖かさがあり、関わる人たちの想いが詰まっています。また、手作りゆえに同じものが2つとない1点ものに会えたりもします。

TOMONIには「ともに生きる心を育み ともに歩む社会の実現」という私たちの理念と、TOMONIの商品を通じて「お買い上げいただく皆さま」「日々製品作りに励む障がいのある方」「私たちスタッフ」が「ともに」素敵な気持ちになれるようにとの想いがこめられています。

TOMONIで「たくさんの人をつなぎ たくさんの人に想いを届けたい。一度きりではなく 何度も... 何度も...」

だれもが「TOMONI」で「笑顔になれるように！」

社会福祉法人 大阪府障害者福祉事業団

ボランティアの声

大阪府障害者福祉事業団 設立50周年にあたって

天理教

大阪教区長 寺田 裕司



事業団の設立50周年にあたり、心よりお慶び申し上げます。

当教区は、信者が事業団開設当初よりお世話になっており、当時広大なコロニーでは草が生い茂り、その事から事故も起こっているということを聞きつけ、当教区の有志からも声が上がリ、当時のコロニー長様と話をつめ、月に一度、当方で鎌と草刈り機を持参しての、“草刈りひのきしん”開始となりました。

本教では、この身体を始め世の万物は神からの借りものであると教えられ、日々その感謝の心を体現することを「ひのきしん」と呼びます。我々の身体、身の回りの環境は毎日動いており、毎日そこに貸し与えて頂いているわけですから、“年に一度”“月に一度”では無く、“日の”寄進と言うわけです。

1975(昭和50)年5月から始まった、毎月の“草刈りひのきしん”も、40年以上を数えるようになりました。世の中が多様化していく中で、それに対応し変化していかなくてはならない部分と、変えてはいけない部分とがあるように思案いたします。この度の設立50周年の吉報に触れ、当初の思いを忘れること無く、今後とも邁進させて頂くことを切に感じる次第です。



ひのきしん災害救護隊

ボランティア活動を振り返って

大阪大学公認ボランティアサークル
フロンティア

梅村 歩

私が大阪府障害者福祉事業団でボランティアを始めた理由は、様々な人と出会える良い機会だと思ったからです。ボランティアは普段私たちが出会わない、様々な背景で育った人物と関われる良い機会だと思い、事業団でボランティアを始めました。

結果、期待した通り様々な人と出会うことができました。特に障がいのある方や子どもたちと関わっていくうちに、今まで考えもしなかったことが大変重要だったり、メディアで伝えられる内容が実際と違っていたり学ぶことが多かったです。

これらの活動を通して私が有意義だと感じたのは、福祉の現場を体感できることです。私は学生としてずっと同じ環境で育ってきました。ですが、福祉の現場を垣間見ることで今まで見えていなかった様々な価値観や課題が見えてきました。これらの経験は今後必ず役に立つと思います。

これからのボランティアとは

大阪大学公認ボランティアサークル
フロンティア

杉ノ原 朋加

新時代令和の世を迎え、幼き頃は近未来のように感じられた2020(令和2)年がやってきた。この「モノとヒトが急速に変わる現代」の中で、ボランティアはどのように変化していくのであろうか。

実のところ、根本は変わらないと思う。何十年と続いてきたフロンティアの歴史を見ても、そのボランティアに対するスタンスは変わらない。それは利用者さんに楽しんでもらい、職員さんに楽になってもらいたいという思いだ。だから我々はこれからもゲームの企画や清掃活動を続けていくだろう。

しかし変わることがあるとすれば「交流」ではないだろうか。AIが進化するこれからの時代で重視されるのは「どんな人間であるか」だと思っている。ボランティアに関しても、ボランティア側と利用者さんの心の機微が揺れ動く瞬間に何かの不可視な効果が生まれはしないだろうか。我々は不定期なボランティアではあるが、100人を超える参加の力と若さと体力をいかして、人の大海を揺らす微風になれば幸いである。



かつらぎまつり

こんごうクリスマス会

ボランティアの歴史

活動期間	名 称	活動内容	活動回数
1975年～	天理教ひのきしん	草刈り・環境整備活動	年 5 回
1977年～	大阪大学公認ボランティアサークル フロントピア	行事レクリエーション・環境整備活動	年 3 回
1989年～	大阪経済大学ボランティアクラブ	工作・料理・レクリエーション活動(ちびっこステイ)	年 1 回
	ボランティアサークル ann		
	学童ボランティア playing kids		
	大阪志学台レオクラブ	工作活動の提供(りようしゃクラブ)	年 5 回
	ハンドメイドサークル		
	team.T.A.O		
1996年～	大阪医専学生ボランティア	レクリエーション大会	年 1 回
1996年～	キッズ・ジュニアエアロビック指導員	ダンス教室指導	月 2 回
1996年～	おやつボランティア	おやつ教室指導	月 1 回
1998年～	エアロビック指導員	エアロビクス教室指導	月 2 回
2000年～	箕面市卓球協会	卓球教室指導・知的障がい者卓球大会運営	年 6 回
2003年～	音タネ一座	バンド演奏	年 1 回
2005年～	音結	音楽活動の提供	月 1 回
2005年～	永野 真由美	利用者の理髪、カットサービス	月 2 回
2006年～	表現倶楽部うどい	中高生の舞台を通した人作りの場	年 1 回
2006年～	スバルファイブ	ヒーローショーのパフォーマンスとおやつ販売	月 1 回
2007年～	蘭の会 衣類ボランティア	衣類の補修	月 1 回
2007年～	音楽ボランティア	音楽活動の提供	月 1 回
2007年～	大正琴	大正琴演奏	月 1 回
2007年～	ピアカウンセリング	利用者の生活カウンセリングの提供	月 1 回
2008年～	音楽セッションボランティア	音楽活動の提供	月 2 回
2008年～	編物クラブボランティア	編物教室の開催	月 1 回
2008年～	音楽療法ボランティア	音楽活動の提供	月 4 回
2009年～	喫茶外出ボランティア	喫茶外出	月 1 回
2010年～	顔と心と体研究会	メイク教室	年 2 回
2010年～	音楽療法士	音楽教室指導	月 2 回
2010年～	大阪ラフタークラブ	ラフターヨガ教室指導	月 1 回
2010年～	歩行ボランティア	利用者と散歩のサポート	月 4 回
2011年～	紀扇会と民謡同好会	日本舞踊と民謡の会	年 1 回
2011年～	にしき連	阿波踊り	年 1 回
2012年～	工作クラブボランティア	工作教室の開催(紙ねんど細工)	月 1 回
2012年～	河南高校和太鼓部 地車	和太鼓パフォーマンス	年 1 回
2012年～	絵手紙クラブ	絵手紙活動の提供	月 1 回
2012年～	うたクラブ	歌のレクリエーション	月 1 回
2012年～	箕面市テニス協会	ショートテニス教室指導	月 1 回
2012年～	茨木市社会福祉協議会	卓球講座	年 16 回
2012年～	NPO 法人ナルク茨木・摂津	プール開放行事の介助サポート	年 1 回
2013年～	お茶・お花クラブボランティア	お茶教室の開催	月 1 回

活動期間	名 称	活動内容	活動回数
2013年～	個人ボランティア	利用者とのお話し相手	月 1 回
2013年～	ショートテニスボランティア	ショートテニス指導	月 1 回
2014年～	絵画教室ボランティア	絵画教室の開催	月 1 回
2014年～	喫茶ボランティア	喫茶店で飲み物と菓子の提供	月 1 回
2015年～	オカリナボランティア	オカリナ演奏	月 1 回
2015年～	エンジョイススポーツボランティア	エンジョイススポーツ指導	月 1 回
2016年～	くろまるパン販売	パン販売	月 1 回
2016年～	売店販売ボランティア	売店販売のサポート	月 1 回
2016年～	ビームライフルボランティア	ビームライフル指導	月 2 回
2016年～	特定非営利活動法人 ようきすなお	クラフト教室指導	月 1 回
2016年～	和太鼓演奏家	和太鼓教室指導	月 1 回
2016年～	ジャンベ演奏家	ジャンベ教室指導	月 1 回
2016年～	音楽ボランティアグループ Addon アンサンブル	音楽行事の提供	年 5 回
2016年～	民謡クラブ 五月会	行事レクリエーション活動	年 1 回
2017年～	環境整備ボランティア	ユニット中庭の草引き、花植え活動	不定期
2017年～	オレダブエコ	音楽活動の提供(アフリカバンド)	月 1 回
2017年～	書道師範	書き方教室指導	月 1 回
2018年～	音楽ボランティア コーロフェリーチェ	音楽イベントの提供	年 1 回
2018年～	シルバートーンズ(Silver Tones) 友の会	高齢者施設等でのテナーサックス、ギター演奏	年 1 回
2018年～	ベル・パタフライ	高齢者施設等でのミュージックベル演奏	年 1 回
2018年～	南京玉すだれお多福会	南京玉すだれの実演	年 1 回
2018年～	笑楽鼓【しょうがくこ】	福祉施設等での和太鼓演奏	年 1 回
2018年～	ムジカ	高齢者施設等でのハーモニカ演奏	年 1 回
2018年～	つむるコーヒー	コーヒーの提供	月 1 回
2018年～	民謡ボランティア	民謡教室の開催	月 1 回
2018年～	レッツパペット	腹話術の公演	年 1 回
2018年～	ドレミちゃん♪	絵本の読み聞かせ、童謡・唱歌を歌う	年 1 回
2018年～	モリックス	施設等での伝承遊び、皿回し、傘回し、マジック等の披露・指導	年 1 回
2018年～	ナリヤ	施設等でのハーモニカ演奏	年 4 回
2018年～	楽ちょ弾【がっちょだん】	ギター演奏	月 1 回
2018年～	図書館ボランティア	図書館の本の対面代読	年 3 回
2018年～	ギターアンサンブル 木曜ペアレンツ	福祉施設等でのギター演奏	年 2 回
2019年～	大阪狭山桜太鼓	福祉施設等での和太鼓演奏	年 2 回
2019年～	さやまカンタービレ	高齢者施設等で歌を歌う等の音楽ボランティア活動	年 1 回
2019年～	塚原しじみ	ギター弾き語り	年 2 回
2019年～	バスケットボールボランティア	バスケットボール指導	年 6 回
2019年～	あまのじゃく	音楽行事の提供	年 1 回
2019年～	和太鼓きらめき	音楽行事の提供	年 1 回
2019年～	クレモナハープ	音楽行事の提供	年 1 回
2019年～	みやらび会	三線演奏	年 1 回
2019年～	たい陽太	音楽行事の提供	年 1 回
2019年～	音楽ダンス	体操とダンス活動の提供	月 1 回

2020年の今、皆さんはどのような
毎日を過ごしているのかな？
気になる日常をのぞいてみましょう！

かなびのさと



天川村、紅葉の前でパシャリ😊
めっちゃきれいな空気もおいしい！
喋って歩いて心身ともにリフレッシュ★

#天川村 #日常を離れた癒し
#喋りまくり笑いまくり
#あ〜お腹すいた！ #昼何食べよ
#それも楽しみの一つ #最高の休日
#大阪府障害者福祉事業団 #SFJ
#かなびのさと #登山部 #富田林市



地域生活総合支援センターあい



ふんわり、しっとり、軽さがモットー♡
パンのように朝食でもパクパクいけるスイーツ
地域生活総合支援センターあいで作ってるよ🎵
皆さん、ご注文お待ちしています🎵

#シフォンケーキ #焼き立て #sweets
#手作りお菓子 #おうちカフェ
#お菓子作りが好きな人と繋がりたい
#TOMONI #あいあいマルシェ
#大阪府障害者福祉事業団 #SFJ #地域生活
総合支援センターあい #茨木市



地域生活総合支援センターワークくみのき



くつろぎの時間をあなたとともに
みんなにお届けしています。
のんびり、ゆったり、自由な時間。
きっと笑顔がひろがります。

#出張喫茶 #本格派 #サイフォン式
#ホットコーヒー #おもてなし
#コーヒーが好きな人と繋がりたい
#笑顔であなたと繋がりたい #TOMONI
#大阪府障害者福祉事業団 #SFJ #地域生活
総合支援センターワークくみのき #大阪狭山市



こんごう福祉センターしいのき寮



子どもたちはお菓子をもらって大喜び
トリックオアトリート！🎃🎃🎃
お菓子をくれないといたずらちゃうぞ

#ハロウィン #お菓子
#トリックオアトリート #かぼちゃ
#おばけ #パンプキン #西洋のお盆
#大阪府障害者福祉事業団 #SFJ
#こんごう福祉センターしいのき寮 #富田林市



障害福祉センターハートフル



20センチほどに成長したキュウリです🍆
真ん中をさわるとかなりトゲトゲ🌟🌟🌟
「まだ取らないで」と言われているみたいです！

#キュウリ #野菜 #家庭菜園
#無農薬 #トゲトゲ #特大
#毎朝チェック #サラダ #お漬物
#大阪府障害者福祉事業団 #SFJ
#障害福祉センターハートフル #茨木市



ワークさつき



安い！早い！うまい！
カフェレストひろがり名物、幻のから揚げ定食🎵
いつもありがとう！！

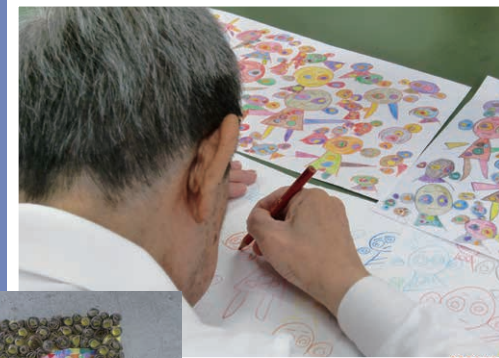
#から揚げ #定食 #ひろがり
#名物 #おいしいランチ
#家庭の味 #食べることは生きること
#大阪府障害者福祉事業団 #SFJ
#ワークさつき #泉大津市



50

大阪府障害者福祉 事業団の未来

大阪府障害者福祉事業団の未来を語る P.82



大阪府障害者福祉事業団の

未来を語る

障がい者福祉の改革元年となった2000年。

試行錯誤を繰り返し続けた20年間で各施設長に語っていただきました。

また20年間で培った経験をベテラン職員たちはどのように後進に伝えるのか。

そしてそれを受け取る若手職員たちは未来への展望を話し合ってくれました。

1. 施設長が語る未来「これまでの20年とその先」

- ・第1章 改革の年「2000年」。そのときを振り返る
- ・第2章 事業団の課題と未来への展望
- ・第3章 若者の可能性と指導者の義務

2. 勤続20年を迎えた中核職員たちの
「若手に伝えたい20年の経験と想い」

- ・第1章 就職氷河期を乗り越えて。
20年前の志を振り返る
- ・第2章 日々の役割と事業団の目指すべき方向

3. 若手職員たちが思い描く
「事業団と障がい者福祉のこれから」

- ・第1章 福祉を志したきっかけ
そして事業団での経験で得たもの
- ・第2章 若手だからこそ気付く問題点
これからの事業団に必要なものとは

施設長が語る未来「これまでの20年とその先」

介護保険が始まり、障がい者福祉が新しい局面を迎えた2000年。変革のときを乗り越え、現在は事業団を牽引し、新しい時代への土台作りに奔走している

各施設長たち。彼らに事業団と障がい者福祉の未来予想図を語っていただきました。

第1章

改革の年「2000年」。
そのときを振り返る

司会・進行 岩城室長、宮脇局長

岩城 本日は勤続歴の長い皆さんに、この20年を振り返っていただきます。20年前、2000年は介護保険が始まり、戦後の障がい者福祉の改革期がスタートした時期です。順にその頃のお話をお聞かせください。



【司会・進行】
理事
指導監査室長
岩城 由幸

入江 2000年は勤続3年目。療育課の配属で、若い強度行動障がいの利用者と、山やグラウンドを走り回っていました。その頃と比べると利用者の高齢化と機能低下を感じます。介護が必要な方も多いので、障がい支援以外にも介護スキルや医療知識が求められる時代になったと思います。

阿見 20年前は自活訓練を行う「若松寮」にいました。当時は運動会やコロニーまつりがありましたが、今はグラウンドがなくなり寂しいですね。その後は「地域生活総合支援セ



ンター「ゆう」で居宅介護事業。ここでは付き添い旅行など楽しい思い出が多いです。平成17年からは「けやき寮」へ。閉鎖間近で最後の利用者1人を3人の職員で支援したのが印象的です。

前田 20年前は経理課の施設係でした。コンピュータの2000年問題で大変だった記憶があります。この20年で印象的なのは、重症心身障害児施設の建設。以前、『金剛コロニー20年誌』の記事で必要性を目にしており、やっとできるんだなと。その一方



前田 茂樹
すくよか 事業部長
(勤続24年)



で、総合管理棟の取り壊し、コロニーまつりの中止は寂しかったですね。

榎本 企業から転職し、経理課から総務課へ異動した頃です。昔の法人事務局は課長以上はほとんど大阪府から出向で来ている方で、役所的な印象でした。今、改めて思うとやはり法人の民営化は大きな変革です。建物や制度などは整備できたかもしれませんが、これからは職員意識の民営化が必要だと思っています。



榎本 浩之
こんごう福祉センター長
かつらぎ 施設長
(勤続27年)

板橋 最初は授産課の園芸部署で、国際花と緑の博覧会の時は利用者と花を配布しました。20年前は総務課人事係。平成13年の大阪府行財政計画(案)では職員の採用枠が厳しくなったことが強く記憶に残っています。自立民営化に関しては、「すくよか」が立ち上がった時点で職員の覚悟も決まった気がします。私も医療職の確保に奔走しました。



板橋 裕二
理事
みなみおおさか福祉センター長
じょぶライフだいせん 所長
(勤続32年)

奥田 最初は「すぎのき寮」で最重度の方の生活支援、9年目に新設の「大阪府立箕面通勤寮」へ。真新しい机を見て「ゼロから始まる」と気合が入りました。箕面ではグループホームを実体験し、地域支援を中心とする社会自立を学びました。近年では活気のあった時代の寮が次々と閉鎖になり、寂しい思いも否めません。

夏原 「大阪INA職業支援センター」で職業能力開発を主に13年くらい。この20年で印象的なのは、「すくよか」の設置ですね。福祉施設が医療など従来にない分野を担うようになり、期待と不安で複雑でした。近年では法人内の就労移行支援事業所を一部廃止したこと。社会の受け皿が整ったのは喜ばしいことですが、福祉の最前線にいる我々も新たな役割を模索する時期だと感じます。



夏原 一裕
地域生活総合支援センター
おんど 所長
(勤続22年)



山本 この中では一番古株になります。20年前は企画調整室で多岐にわたる調整業務に携わっており、平成14年からは再編一色。印象に残っているのは、「ワークさつき」。地元反対が激しく、立ち上げの際は大変でしたが、住民説明会等を通じ最終的にはご理解をいただくことができました。また、地域移行や支援費制度から障害者自立支援法になる制度の変化も、私にとっては良い勉強でした。

杉田 新卒で「くすのき寮」に入り、2000年は「けやき寮」。大晦日は宿直で利用者とミレニアムを迎えました。最も印象的な出来事は、コロニー再編。この時は長野県西駒郷まで地域生活移行の勉強をしに行きました。あとは障害者自立支援法への移行と自立民営化。それらを先端部所で迎え、身をもって経験できたことは、今の自分にとって大きな財産となっています。



杉田 啓史
ワークさつき 所長
(勤続29年)

東 20年前は「すぎのき寮」で、屋外作業が主な療育班にいました。長かったのは地域移行支援センター事業として配属された茨木の「あいあい・みしま」です。ここで他法人や行政の方などに関わった経験が財産になっています。先ほどの山本所長から立ち上げの話が出ましたが、私は和泉市に設置した、コロニー再編最後のグループホーム「しろくま」の立ち上げがスムーズだったので、珍しいと驚かれました。

岩城 貴重な思い出をありがとうございました。やはり時代の変遷を感じますね。福祉においては、一番大変な時期だったのかなという印象です。

第2章 事業団の課題と未来への展望

岩城 次は、事業団の未来について。日々の業務の中で感じる課題を、未来への展望とともにお聞かせください。

奥田 課題は支援における専門性の向上ですね。経験の積み重ねに加えて根拠、専門性を持った支援。そして福祉分野全体の問題である人材確保。さらには地域や他機関との連携です。積極的に参画していくことで、横のつながりを広げたい。そして利用者だけでなく家族の支援も必要だと感じています。



奥田 雅博
きたおおさか福祉センター長
明光ワークス 所長
(勤続31年)

夏原 今年から社会福祉協議会の会議に参加する機会が増え、福祉の新しい流れが作られる場での事業団の位置づけが課題と感じました。大きいだけの法人ではなく、どのように府の福祉に関わっていくのか、見直しの時期かもしれません。そういう意味では、閉塞感を払拭し職員のモチベーションを上げるためにも、法人外の事業所との連携は重要だと思います。

山本 地道ですが、職員の確保と育成が発展への道だと思います。地域では特色ある施設が増え、利用者も情報収集されています。そのニーズに敏感に対応することで、やる気のある職員も集まり評判も上がる、相乗効果があると思います。事業団は多様な事業を持っているので、その強みは生かしていきたいです。

杉田 私も同感です。やはり地域のニーズに応えるサービスは必要でしょう。利用者も職員も高齢化していますし、支援学校の保護者向けの説明会では「若い人向けではない」

という反応でした。SNSの活用やタブレットの導入など、時流に沿ったサービスは積極的に取り入れていかないと、乗り遅れてしまうかもしれないですね。

東 次世代の育成は最重要課題です。そのためには長く働ける職場環境づくりも必要だと考えます。来年度、事業所独自の研修日を新たに設ける予定です。職員がスキルを身につければ市の部会などでも積極的な発言ができて、事業所の信頼につながります。そしてそれが地域で選ばれることへ結びつくのではないのでしょうか。

入江 障がい福祉分野は多くの事業があり、その中でエキスパートを育てることが重要だと思います。ただ、職員の疲弊を考えると難しいですね。人によってはマルチに働くタイプもいますし。事業所、法人内で情報の連携をしてバランスを取り、利用者の要望に応じたコーディネートができる、その環境づくりが課題です。



入江 真矢
かなびのさと 施設長
(勤続23年)

阿見 私も皆さんと同じで、課題は人材確保と定着、そして専門性の向上です。それには異動スパンも考慮するべきでしょう。長く働いてスキルアップする人もいるし、合わない人は適性に応じて異動すればいい。そして人材確保には発信力も大切です。「ああ、ここで働きたいな」という魅



大阪府障害者福祉事業団の

未来を語る



力を伝える努力も必要だと考えます。

前田 安定した人材の確保には、福祉にまつわるイメージの払拭も必要だと思います。例えば事業団の場合、育休から復職する方が多いし福利厚生も良い。それをアピールしていけたらと。そして、事業所間の情報共有、外部からの視点の導入も大切。きっと我々が気づいていない、新しい発見があると思うんです。

樫本 既存の人的資源で足りない部分は法人外からノウハウを持った人材を獲得するなど、欲張りですが質も量も欲しいです。同時にコロニー時代の大家族経営から組織へ、現状に応じた職員の意識改革も必要です。そして的を絞った事業転換とブランド化。具体的な経営戦略が必要かなと考えます。

板橋 今の若い世代を確保するためには、大学の講義でアピールするなど、直接的なアプローチが必要な気がします。育成に関しては、方向性を明確にしてあげるのも大事でしょう。事業に関しては、分野を特化することも競争に勝つ手段だと考えます。法人としてそういう議論を今後やっていくべきではないでしょうか。

岩城 ありがとうございます。やはり人材確保と育成は共通の課題ですね。外部との連携や事業所間の情報共有など、積極的な提案も大変参考になりました。

第3章 若者の可能性と指導者の義務

岩城 次は未来を担う若手について。育成について思うこと、期待など先輩からのご意見をお聞かせください。

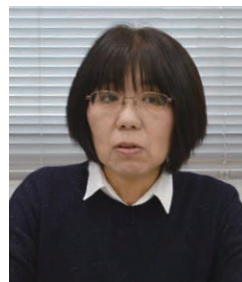
東 僕が若手に期待するのは「発想力」。福祉だけでなく、新聞やニュース、いろんな情報にアンテナを張ってほしいです。その中で柔軟な発想が生まれると思いますし、上司になった暁には部下にその情報をうまく伝達してほしいです。



東 啓二
地域生活総合支援センターいま所長
(勤続23年)

杉田 「262の法則」というのがあり、2割は自分で育つ人、6割はどちらにも転ぶ人、残りはそれ以外。この6割をどう上位2割に引き上げられるかです。ただ、意欲だけではできないこともあるので、情報の伝達をしてあげることは大切です。そのうえで若い人には自由な発想をしてもらえたらと思います。あと、「返事！あいさつ！声！ダッシュ！」は原則ですね。

山本 最近は元気な年配の職員も増え、若者が目立たないかなと思う時もありますが、やはり若い人には好奇心を持って楽しく仕事をしてほしいです。特に福祉の現場なので、笑顔や活気は大切です。何でも話し合ってお互いを高め合うような、仲間づくりも大事だと思っています。



山本 幸子
地域生活総合支援センターきら所長
(勤続33年)

夏原 「自分はどうか」という目標を持つてほしいです。思い入れの有無で、仕事は大きく変わります。そして物事を深め経験を積むことで、自己肯定感が生まれます。ただし簡単なことではないので、上手に導いてあげることも必要なことではないでしょうか。

奥田 現場としては、明るさと元気。そして経験を積むと同時に、根拠や専門性も深めてもらいたいです。言われたことだけでなく、提案や意見もどんどん出してほしいです。利用者と同じで、転ばない支援じゃなくて、自力で起き上がるサポートをしたいと思います。

板橋 若い人はできるだけ色々な所に行って、見識を広めてほしいです。他業種の友人を持つのも大事。自分の悩みを客観的に判断できたり、違う角度から情報をもらったり、多様なつながりができます。それはきっと、社会性や人間力の糧になると思います。

樫本 夏原さんと一緒に、主体的に取り組むことですね。指示待ちではなく、まず自分の考えはどうなのか。上司の役割は、この考えの承認、または指導です。主体的に取り組んだことは、失敗しても成功しても勉強になります。これからの事業団を担う若手に、これから先20年間のその時々自分の役割をイメージしてもらえたらと思います。

前田 自分の置かれた状況を的確に判断できるようになってほしいのと、SNSなどIT技術をうまく業務に有効活用してほしいことですかね。あと、柔軟な発想。福祉も制度も常に変化します。時流に合わせて、臨機応変な考えができるようになっていただきたいです。

阿見 板橋さんの言われた、他業種との付き合いには私も賛成です。事業所間でも児童施設から特別養護老人ホームまでエリアをまたいだ連携の中で、たくさん学べることで、



阿見 太津也
大阪府立こころ福祉センター
しいのき寮長
(勤続25年)

あります。ルールに則った臨機応変というのは難しいけれど、セミナーなど勉強できる場を作っていけたらいいなと考えます。

入江 今の若い人で「絶対この仕事」というのはさっきの「262の法則」の2割かもしれません。でも、6割の方々が初心を忘れてほしくないし、自主性を持った働き方をしてほしい。それには、私たちがしっかりと背中や言葉で伝えていくべきだと考えます。

宮脇 公立時代の事業団は確かに安定していました。しかし常に府と協議しながらの運営。自分たちで舵取りする難しさのなかで、これから必要とされるのはやはり次の世代の人たち。皆さんがおっしゃるように彼らにはもっとアンテナを広げてもらい、私たちは彼らが自主的に動いていける環境を作っていくことが大切だと思います。



【司会・進行】
法人事務局事務局長
宮脇 章二郎

岩城 ありがとうございます。どうぞこれからも大阪の福祉をリードする法人の指導者的立場を自覚してぜひ活躍ください。そして「今どきの若者論」などにとらわれずに、ぜひ若者たちの色々な可能性を引き出してあげてください。



大阪府障害者福祉事業団の

未来を語る

勤続20年を迎えた中核職員たちの 「若手に伝えたい20年の経験と想い」

事業団にとってこの20年はまさに「改革の日々」。その激動の日々を陰になり日向になり支え続けてきたのが彼らであることは間違いないだろう。この20年

間の経験と、そしてこの先の事業団の目指すべき未来について話し合っていました。



模施設があるのかと驚き、実習もさせていただき、さらには採用試験を受けてみないかと寮長にお声がけいただきまして、偶然の重なりで良いご縁を得ました。

井端 学生時代に参加した近畿青年洋上大学(洋大)がきっかけです。近畿2府8県の青年が毎年500人くらい客船で団体生活をし、他国を訪問しながら交流をする大きなプロジェクトですが、同じ班に事業団から派遣された職員がいて、採用試験のお話を聞きました。洋大から事業団への入職は私が2人目で、現職では唯一だそうです。

井上 私は新熊さんと同じで教員志望でした。4回生の頃、富田林にできた地域福祉課グループホームのアルバイトをしていたんですが、教員試験に合格しなかったのもう1年やろうかなと思っていたら、職員の方が秋に採用試験があることを教えてくださいました。

岩城 その頃は倍率が高い時代だったと記憶していますが。
井端 はい、就職氷河期の真っ只中でした。80人程度の受験者で合格者が7人ですから倍率11倍強、今思うとよく通ったものです。一次試験の日がひどい暴風雨で、小論文の途中で停電が起きたことから「停電世代」と言われています(笑)。

新熊 この世代はみんな職員寮に入っていましたよね。私は女子寮

でした。男女の寮が隣接していて、それぞれの1階に共同のお風呂。トイレと台所も共同で。

井端 男子寮は三畳間をぶちぬいて六畳にした部屋で、体育会系の部活寮のような先輩後輩の関係性もありながら、プライベートな時間もあり、非常に居心地が良かったです。今の若い人にはウケないでしょうけど。

井上 私は仮眠するためだけに借りていました。勤務で連泊の時はどうしても寝不足で、家に帰って寝ると遅刻しそうになるので、職員寮で寝てから帰ったり。

岩城 それから20年、振り返ってみて、印象的な出来事って何でしたか。

井上 「けやき寮」には、北摂の方が多くおられました。その方々が寮閉鎖後、地元のグループホームに戻られ、楽しそうに暮らしておられるのをお見かけしたのが印象的でした。逆に、地域に戻られて急速に老化された方もいて、心配になったこともあります。



井端 隆介
明光ワークス 所長代理
(勤続20年)

就職氷河期を 乗り越えて。 20年前の志を振り返る

司会・進行 岩城室長

岩城 本日は勤続20年の方々にお集まりいただきました。まさに事業団の中核を担う世代です。まずは入職の動機からお伺いしてみたいと思います。

新熊 教員の採用試験に落ち、小学校の支援学級の講師を1年勤めました。同時に障がい者スポーツのボランティアも始め、障がい者支援が自分に合うのかもと思っていた頃、金剛コロニーの採用試験を知りました。

塚本 社会福祉学部1年の時にボランティアのクラブに入部し、その参加先の一つが金剛コロニーでした。こんな大規



新熊 基美
地域生活総合支援センターきらら
支援員
(勤続20年)

大阪府障害者福祉事業団の

未来を語る



新熊 私は新規採用後に配属された授産課で窯業を担当し、利用者と作品を作ったことが思い出深いです。そしてその後には異動した療育課で、音楽を担当したことです。全ファミリーで週に200人くらい、今では考えられない所属を超えた活動を約15年。言葉だけでないコミュニケーションを学び、利用者だけでなく職員間もつなぐ役割として、貴重な職務だったと思います。

塚本 私は最近の話ですが、「しろくま」というグループホームの開設準備をしてきて、たくさんの方々の助力を得ながら進めてきた、この1年間で印象的でした。今までの仕事の経験を新規に生かすチャレンジをさせていただきました。事業団としても念願のホームなので、安定して運営していけたらいいなと思います。

岩城 採用時の競争率や職員寮など、現在とはずいぶん違う時代でしたね。私も当時を思い出して懐かしくなりました。ありがとうございました。



塚本 将大
ワークさつき 主任
(勤続20年)

第2章 日々の役割と事業団の目指すべき方向

岩城 では次は、皆さんが仕事で大切にしていることや、課題などをお伺いしてみたいと思います。

新熊 現在、「こども発達支援センターSun」で、2歳児から小学校2年生までのお子さんの療育をしています。大事にしているのは、一人ひとりに応じた個別のプログラム。子どもの特徴を見極め、親子で充実したプログラムになるよう努力しています。

塚本 私はグループホームで幅広い年齢層の利用者を支援しています。ニーズをうまく言葉にできない方もおられますが、それをどう汲み取り実現させていくのか。チーム全体で常に考えています。

井端 「明光ワークス」で初めての管理職を任されており、とてもやりがいを感じています。課題はたくさんありますが、「明光ワークス」をあらゆる面で地域で最も優れた事業にしたいと思っています。

井上 私は「大阪INA職業支援センター」で職業訓練指導員と事務作業や調整をしています。訓練受講希望者が激減する中、どうやって人を集めるかは大きな課題ですし、訓練生は1年ごとの入れ替わりなので、年度によって変化への対応も考えないといけません。

岩城 次は、皆さんが考える事業団の「強み」と「弱み」を教えてください。

新熊 強みは長年の歴史ですね。大阪府全域で展開しており、対象年齢層も幅広いですし、総合的に地域貢献していると思います。弱みは、専門性のある事業所での人材育成で



しょうか。

塚本 私事業の幅広さ、事業所間のネットワークは強みだと感じます。弱みは、やはり人材不足。正規職員の急速な入れ替わりや非正規職員の増加も、ノウハウ継承の難しさの原因ではないでしょうか。

井端 長年の功績は私も同意ですが、その一方で過去の栄光から抜け切れず、時代に乗り切れていない弱みも否めません。ただ、コンプライアンスを遵守し、クリーンな法人運営を行っている安心感は大きく、強みだと感じます。

井上 多くの職員がいるのは強みだと思います。潜在的に持っている特技や知識、それが使えたらもっと面白いのではないかと。弱みは、他部署の仕事を知る機会があまりないこと。情報を共有できれば、もっと協力体制が取れるのではないかと考えます。



井上 雅映
大阪INA職業支援センター 主査
(勤続20年)

岩城 では最後に、今後の事業団の発展について。どんな組織を目指しますか。

新熊 みんなが同じ方向を向いて、高め合える組織を目指した

いです。職員の異動があっても、サービスの質を落とさず、さらさらした色を保っていきたい。そのためには、職員間のコミュニケーションを大切にして、話し合いができる雰囲気づくりが必要だと思います。

塚本 強みを作って発信するのも大切ですが、組織としての役割を客観的に分析することも必要だと思います。今後ますます人口が減る中で、人材を獲得して気持ち良く仕事を続けてもらえるよう、社会のニーズを把握し、中長期的視点での現実的な運営計画を考えていくべきだと思います。

井上 福祉の仕事は、人から必要とされるやりがいが魅力で、事業団はその中でも恵まれている職場だと思います。社会の変化に対応し、職員自らがニーズに対応することで、もっと楽しくなるし利用者も職員も集まってくると思います。

井端 事業団の自立民営化への移行期と、障がい福祉制度の急速な変革期が重なったことが、時流に乗り遅れた一因ではないかと。今後は経営基盤の安定を保ちつつ、福祉の本質的な意義に沿った法人運営にシフトし、再び日本の障がい福祉を牽引していく存在に返り咲きたいです。全職員が同じ思いを持つことが実現のカギになると思います。



大阪府障害者福祉事業団の

未来を語る

若手職員たちが思い描く 「事業団と障がい者福祉のこれから」

事業団での経験が7年までの若手職員たち。“新人”から一通りの仕事を覚え、ときに自分たちよりも経験の少ない職員に対して指導する機会も少なくない

立場の彼らは、まさにこれからの事業団を担っていく存在。そんな彼らに事業団やこの国の福祉の現状、未来への展望を語っていただきました。

福祉を志したきっかけ そして事業団での 経験で得たもの

司会・進行 岩城室長、宮脇局長

岩城 今回は5～7年目、若手の皆さんですね。まずは入職された動機をお教えいただけますか。

下馬 親が福祉の仕事をしており、私も大学時代に授産施設でアルバイトをして、仕事の楽しさを知ったのがきっかけです。現在は守口市の「地域生活総合支援センターいま」で、生活介護のサービス管理責任者をさせていただいています。

林田 大阪狭山市の「相談支援センターぱるぱる」で相談支援専門員をしております。私は大学が社会福祉学科で、児童施設を希望していましたが、実習で訪れた障がい児の通園施設で障がい者支援に興味を持ちました。こちらの事業団は児童だけでなく成人や高齢者にも関われるということで志望しました。

三浦 私も大学は社会福祉学科でしたが、卒業後も進路が決まらずにいたところ、高校の同級生の北野さんに誘っていただき、非正規職員として「もみのき寮」に入りました。そ



林田 真実
地域生活総合支援センター
ワークくみのき
(勤続6年)



の後、試験を受けて正規職員になり、現在は「こんごう」で生活支援員をしています。

北野 現在「南河内南障害者就業・生活支援センター」にいます。私の場合は、母が事業団で働いていました。現在も知的障がいの方の支援をしており、親の背中を見ながら仕事の楽しさを知りました。そのうえで自分も事業団で働けたらと思った次第です。

小北 泉大津市の「ワークさつき」でグループホームを担当しています。私も、母が事業団で働いていたのと、自分も大学時代にアルバイトをさせていただき、仕事が面白いと実感しましたので、その流れで採用試験を受けました。

新田 私は民間施設を経験しています。事業団の採用に応募したのは、知的障がい者の方と関わる仕事がしたかったからです。前職の先輩から、事業団は児童から高齢、軽度から重度まで様々な事業を展開していると聞いていました。今は「にじょう」でユニットリーダーをしています。

山本 「かつらぎ」のつつじユニットで支援員をしています。大学は教育学部で養護教員を目指していましたが、教員採用試験を受けながら「地域生活総合支援センターおんど」に何年か非正規職員で勤務しているうちに、この仕事の魅力を知って採用試験を受けました。

岩城 この仕事で楽しいこと、辛いことを教えてください。

小北 辛いというより、私が今の職場で一番年下なので、新しい方式や意見が通りにくい難しさはあると思います。楽しいといえば、就職フェアへの参加なんかは、事業所内では経験できないので面白いですね。



新田 漣
にじょう
(勤続5年)



小北 陸
ワークさつき
(勤続5年)

新田 楽しいことは今年4月からユニットリーダーになり、発言力が高まったことでしょうか。自分の思いで変えていける部分は、やりがいを感じて楽しいと思います。ただ、経験の長い方に「昔はこうだった」と意見をもらうこともあり、世代間の調整が難しいことが辛いところでしょうか。

山本 楽しいことは、新しい支援に良い評価をいただいた時ですね。辛いのは支援の部分で自分の未熟さゆえに、周囲にご迷惑をかけたり意見をいただいたりすることですね。

下馬 私は立ち上げから携わらせていただけてるお陰で、意見がけっこう通りやすくて、色々やらせていただけるのが楽しいです。辛いことは、人間関係の聞きたくない話まで聞かされることですかね。これは自分も気をつけたいいことでもあります。



下馬 雅之
地域生活総合支援センターいま
(勤続6年)

林田 利用者や家族から、良い変化があったことを嬉しそうにご報告いただく時は楽しいです。逆に辛いことは、私はあまり話が得意ではないので、利用者のニーズを聞き取れていないことがあるんじゃないかと。コミュニケーション力を鍛えたいです。

三浦 利用者とお話するのは楽しいです。辛いことは、人手が足りないことですね。人手が足りないと支援がおろそかになる部分が増えて職員間もギスギスしてくるし、夜勤も

大阪府障害者福祉事業団の

未来を語る



多くなります。それが今辛いことです。

北野 他職種、他機関と関わる機会が少ない中で、こうして色々お話できるのは楽しいです。辛いことに関しては、僕は何でも上司に伝えています。若手にはもっとチャレンジさせてあげて、経験を積んでもらいたいと思います。



北野 成人
地域生活総合支援センターきらら
(勤続6年)

岩城 ありがとうございます。では、宮脇局長からひと言。

宮脇 大変興味深かったです。私たちの時代は職員間のつながりが密だったのですが、今は研修も少ないし、こういう場は稀少ですね。なので、職員や事業所間で情報交換ができるよう、ぜひ現代に合うアイデアを皆さんに提案してほしいなと思いました。世の中が進んでいるから、活用できるものがあるんじゃないかな。期待しています。

第2章 若手だからこそ気付く問題点 これからの事業団に必要なものとは

岩城 後半では、これからについて伺います。皆さんはどのような事業団を目指しますか。

北野 今は新人研修が少ないので、若手にもっと成長の機会をあげたいです。あと、人事異動が多く、それが退職やメンタル的な問題にもなっているので、改善できたらと思います。

三浦 僕も、職員の処遇面を理由に辞める人が多いのはもったいないと思います。また、良くも悪くも法人の規模が大きいのかなと思っています。



三浦 侑哉
こんごう
(勤続7年)

林田 事業所同士の交流がもっとあってもいいかなと。特に年数が経つと情報交換の機会がなくなります。あとは、人事異動で全く別部署になると勉強することも多く不安になるため、早めに教えていただけると有難いです。

下馬 人事異動で問題が出るのは、規模が大きすぎるのも一因でしょうね。大きい法人だからこそ、理念や目標を明確にして、情報を共有することが大事。放っておいても回るだろうではなく、計画的な人材育成が必要だと思います。

小北 組織の大きさはメリットとデメリット両面ですね。あとは強みをもっと明確に打ち出していくこと。若い職員が分散して孤立しやすいのも、横の連携や情報の共有がしにくい理由かもしれません。

新田 私も事業所同士それぞれの情報が分かりづらいなと感じます。あと、若手のサービス管理責任者等、資格の取得が計画的に行われていない気がします。採用に関しては、外部から見てわかる魅力を出していくべきでしょうね。

山本 規模が大きくて地域も広く、通勤2時間の人もいます。これは採用を考えるとネックだと思います。また、事業が多岐にわたるため、個人の適性を人事の方がどれぐらい把握してくださるのか不安があります。

岩城 最後は「もしも自分が理事長になったら」やりたいことを。

山本 給与体系をさらに整えたい。資格に対して、うまく調整できればいいと思います。すごく難しいでしょうけど。

新田 事業団の専門学校というか、福祉をめざす人に来てもらう教育施設を事業団で担えたらいいですね。それと「福祉といえばあの事業団」といわれる知名度。24時間テレビ常連みたいなのも面白いと思います。

小北 対外的に情報発信を行ったり、就職フェアで新人を募ったりする部署かツールがあればいいと思います。あとは各所属長にもっと裁量を与えて、独自の運営を任せてみるのも面白いと思います。

下馬 積極的にロボットを導入したいです。人が少ない夜勤を任せたり、AIで生活記録データを取ったり。効率も考えないといけません。どんどん改革していきたいです。

林田 新規採用の職員が、職場の悩みを気軽に相談できる環境を作りたいです。また、事業所間の情報交換や、受ける側



山本 麻友香
かつらぎ
(勤続5年)

のニーズに合わせた研修も大事だと思います。

三浦 今の時代は全国で人手不足ですので、事業を狭く深くして人を固める規模縮小を考えます。ソーラーパネルの設置、通勤が不便な立地の事業所には、車の運転免許取得費用の助成や交通機関に応じたシフトも必要でしょう。

北野 交通に関しては送迎バスを希望します。それとこんごう福祉センター内にコンビニを作りたいです。実習生も隔離状態だと労働意欲がわかないだろうし。そして理事長といっても、職員の前に顔を出していきたいですね。

岩城 面白い意見がいっぱい出ましたね。どうでしょう、宮脇局長。

宮脇 私は普段は施設長以上と話をすることがほとんどですが、今日こうして若い世代の話が聞けて、良い機会になりました。コンビニや通勤バス、広報など、現実的に視野に入れている提案もたくさんありました。昨今は非正規職員が増えて、労働バランスや責任など、みんなが納得できる働き方は非常に難しいです。人事異動の問題も、理屈でいうと総合職は定期的に異動してもらうべきだけど、地域とのつながりも考慮しないといけません。今後の大きな課題ですね。皆さん、ぜひ一緒に頑張りましょう。



大阪府障害者福祉事業団の

未来を語る

大阪府障害者福祉事業団検定の答え

A1	社会福祉法人大阪府精神薄弱者コロニー事業団	1969(昭和44)年4月1日に設立。
A2	湯川 宏	当時の大阪府副知事。
A3	賀集 一	法人設立当時は常務理事に着任。
A4	台風	直撃でした。
A5	大阪 I NA職業支援センター	1995(平成7)年4月1日に開所。
A6	1970(昭和45)年4月9日	しいのき寮前の広場(現：ウェルフェアパーク)で開所式を開催。
A7	しいのき寮、くすのき寮	しいのき寮は精神薄弱児施設(定員100人)、くすのき寮は精神薄弱者入所更生施設(定員120人)。
A8	向陽橋(こうようばし)深山橋(みやまばし)	(写真A)
A9	上皇・上皇后	1970(昭和45)年9月 皇太子時代に来所。
A10	6つ(全て)	テニスコートはグラウンドの一角と職員宿舍の敷地内の2か所にあった。
A11	ねむの木保育所	職員や支援学校の先生、また市民の子どもを預かっていた。
A12	②救急車	(写真B)
A13	ぼぶら	千代田店や富田林西口店等を設置。
A14	②鶏を飼育し卵	採れた卵を使って、おやつホットケーキを作ったりしていた。
A15	提灯	夜桜が綺麗。
A16	さくら広場	2018(平成30)年第46回こんごう福祉センターまつりで発表された。
A17	矢野 耀大(やの あきひろ)(元中日・阪神) 掛布 雅之(かけふ まさゆき)(元阪神)	
A18	河島英五、XジャパンTOSHI、大西ユカリ、野田淳子、 フラインキ、佐藤勢津子(美空ひばりの妹)、憂歌団	
A19	グラウンド	毎年、運動会や仮装行列などが行われていた。
A20	10科目	内科、小児科、循環器科、精神科、外科、整形外科、婦人科、耳鼻咽喉科、歯科、リハビリテーション科の10科。
A21	約9割	知的障がいのある高齢者の生活の場として、多くの方に利用いただいている。
A22	つばめ	一度巣立った鳥たちが戻ってくる、かなんびのさとはそんな事業所。
A23	③ほし	ユニット名の由来は宝塚歌劇の組名。
A24	せるふ	利用者一人ひとりにあった支援を提供することで利用者それぞれの「自立」につながってほしいという思いから英語の「self-reliance：自立」→「せるふ」と名付けた。
A25	③517m	①は大和葛城山、②は金剛山
A26	おりーぶの湯	ゆったり入れると好評。
A27	滑り台、ブランコ、ジャングルジム、うんてい、遊動橋	
A28	カブト虫	近隣の幼稚園等にも配り喜ばれた。
A29	③64羽	色とりどりの鳥(ペンギン含む)が羽ばたいている。(写真C)
A30	大阪万国博覧会	会場の遊歩道から移植した。すぎのき寮管理棟に由来が書かれた板がある。(写真D)
A31	あいあいマルシェ	近隣地域の方々を対象に、自主製品を販売。
A32	クリスマスシュートレן	1期生から製造開始。作りあげた達成感が修了生の自信につながっている。
A33	いけばな講座	約7年前から月に1度「嵯峨御流」のいけばな講座を開催。
A34	③おひさま、ひだまり、こもれび	暖かみのあるイメージで名付けた。

A35	②ガンバ大阪	今までに2回、選手が来所し、利用者と交流して下さった。
A36	ブラジル	第2回はアフリカ、第3回はハワイ(アメリカ)、第4回(2019(令和元)年度)は中国。
A37	ただいま	家庭的な温かい雰囲気になるように名付けた。
A38	③ビームライフル	
A39	いばらっきーちゃん	茨木市子育て応援キャラクター。 10月31日生まれ。特技はけん玉。
A40	華	
A41	オレンジ	
A42	ヒメボタル	グループホームの名称(かがやき・きらめき)の由来にもなっている。
A43	Un deux(アンドゥ)	名付け親は当時、企画調整室長で現評議員の白土隆司氏。狭山池博物館の設計を手がけた建築家安藤忠雄氏の「あんどう」と喫茶運営を1歩2歩と歩みを進め繁栄することを願いフランス語の1・2「アン・ドゥ」を掛け合わせた。
A44	海	よく、サザエさんシリーズ?や寿司ネタ?と尋ねられる。
A45	大阪府立和泉保健所泉大津支所	
A46	前方後円墳	世界遺産登録で話題の古墳型。(写真E)
A47	②ヘレン・ケラー	ヘレン・ケラーの来日がきっかけで、身体障害者職業更生週間が始まり、現在の障害者雇用支援月間に引き継がれている。
A48	菊	mumのシンボルマークも、菊の花がモチーフ。(写真F)
A49	たいこ	
A50	おんどくん	利用者一人ひとりの得意分野を生かし、作業を分担しながらキーホルダーやTシャツなどのグッズを作成。



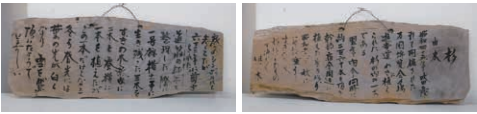
(写真 A)



(写真 B)



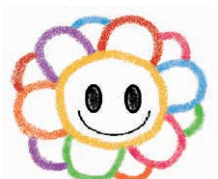
(写真 C)



(写真 D)



(写真 E)



(写真 F)

由来
杉
昭和四十五年吹田丘陵に
おいて開催された
万国博覧会々場の
遊歩道わきに植え
られた杉の内の一本
である
翌年閉会と同時に
約二百六十本を頂き
幹部宿舍周辺に
植えた生き残り
昭和五十七年秋に
一号館の横より
すぎの木寮へ
移植したもの
唯一の木
寮のシンボルにと
考えたが
六十三年に剪定
された。
道筋の植木を
整理した際に
一号館横土手に
生き残った三本を
すぎの木寮内に
一本を植えたが
この一本だけとなる
冬より春先には
葉の先が白く
なり雪を
頂いたようで
美しい

TEST RESULTS
検定結果

正解数 0問
金のたまご級

正解数 1～10問
期待の幼虫級

正解数 11～20問
羽化を待つサナギ級

正解数 21～30問
羽ばたく成虫級

正解数 31～40問
カリスマ人間級

正解数 41～49問
レジェンドヒーロー級

正解数 50問
仙人

編集後記

令和改元と時を同じくして、大阪府障害者福祉事業団も設立から50周年を迎えました。奇しくも、大阪府からの財政的援助によらない完全自立民営化、府立金剛コロニー再編整備の完了という当事業団にとって、大きな節目の時期と重なりました。こんごう福祉センター(旧金剛コロニー)構内もこの20年で大きく様変わりしました。近代的で便利な設備を兼ね備えた新規施設が立ち並ぶ一方、役目を終えた旧寮が姿を消し、広大な更地となっています。時代の変化とともにさまざまなことが移り変わってきましたが、利用者に接する姿勢や愛情といったものは不変であり、これまで共に過ごした思い出は、利用者、職員、すべての方の中で生き続けていくものだと思います。

設立50年の節目にあたり、この度50年誌を発行することとなりました。これまで設立10年、20年、30年と、節目の年に周年誌を発行し、今回、金剛コロニー30年誌「ふれあいの声ひびかせて」から、設立50年までの20年間(2000年～2020年)にスポットを当てた内容としました。

そのうえで、次のことに留意しました。

① 2大改革 法人の自立民営化・金剛コロニー再編整備を当時の思いや

時代の変遷を踏まえて表現すること

② 何度も見返してもらえ、楽しめるものにする(豊富な写真やクイズ等を掲載)

③ ドローンによる空撮や二次元コードなどを活用することで、将来見返したときに

当時の時代背景と事業団の姿が一体的に蘇るものとする

編集を進めるにあたり、担当者の多くはこの20年の歴史さえ知らず、掲載内容や写真収集作業等、手探りの状態だったため、事業団の歴史について学ぶことから始めました。自立民営化・金剛コロニー再編整備のことを知らない職員が年々増えていく中、歴史的経緯を伝えるものとして活用することも踏まえて製作を進めていきました。

最後に、祝辞をくださいました皆さま、取材にご協力をいただきました、利用者、家族の皆さま、当時の様子をひも解くカギとなっていたいただきましたOB職員の皆さま、本誌の製作にご協力をいただきましたすべての方々に、心より厚く御礼申し上げます。

これからも、更に充実した周年誌を発行できるよう経営基盤の安定化に努め、利用者に安全・安心な質の高いサービスを提供し、末永く発展的に事業を継続したいと考えておりますので、皆さま方の変わらぬご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

編集担当／山田忠男 辻野滋之 堀恵子 道簾健夫



大阪府障害者福祉事業団50年誌

2020年5月1日 発行

発行者	社会福祉法人 大阪府障害者福祉事業団 〒584-0054 大阪府富田林市大字甘南備216番地(法人事務局) TEL:0721-34-2180 FAX:0721-34-2121	 二次元コード (公式ウェブサイト)
印刷・製本	株式会社JTBコミュニケーションデザイン 〒541-0056 大阪府大阪市中央区久太郎町2-1-25 JTBビル6F 日本アート印刷株式会社 〒550-0001 大阪府大阪市西区土佐堀1-5-11 土佐堀プライム6F	

※本書に記載されている内容は2019(令和元)年度のものです。

